

# 中国盗墓史稿

未だ掘られざるの墓無し

岡島 政美

せせらぎ出版

沙立至勝州三千  
正義難  
白卯反  
位為二世  
山及并天下  
致椁宮  
義類師  
冢内作  
機弩矢有所穿近者輒射之以水銀為百川江河大海

會暑上輜車臭乃詔從官令車載一石鮑魚  
其臭行從直道至咸陽發喪太子胡亥襲  
帝九月葬始皇鄠山始皇初即位穿治鄠  
徙送詣七十餘萬人穿三泉下銅而  
徙藏滿之  
集解徐廣曰銅一作錮錮鑄塞也正  
三重之泉言至水也  
藏才浪反言  
令匠作

沙丘至勝會暑上輜車臭乃詔從官令車載一石鮑魚

正義鮑亂其臭行從直道至咸陽發喪太子胡亥襲

位為二皇帝九月葬始皇鄠山始皇初即位穿治鄠

山及并天下徒送詣七十餘萬人穿三泉下銅而

致椁宮觀下官器珍怪從臧滿之集解徐廣曰銅一作錮錮鑄塞也正

義顏師三重之泉言至水也臧才浪反言家內作宮觀及百官位次奇器珍怪從滿家中令匠作

機弩矢有所穿近者輒射之以水銀為百川江河大海

機相灌輸正義灌音上具天文下具地理以人魚膏為

# 中国盗墓史稿

未だ掘られざるの墓無し

岡島 政美

せせらぎ出版

## もくじ

はじめに	vii
<b>第1章 先秦兩漢盜墓史</b>	
<b>第1節 中国古代喪葬習俗と殷墟の破壊</b>	2
(一) 中国古代喪葬習俗	2
(二) 殷墟の破壊と盗掘	6
殷墟 / 婦好墓	
(三) 厚葬の淵源	12
<b>第2節 春秋戦国至秦末盜墓史</b>	13
(一) 伍子胥、屍を鞭打って恥を雪ぐ	13
(二) 西楚霸王、始皇帝陵を焼く	17
【コラム1】墳丘	20
【コラム2】中山王墓—台榭建築	22
【コラム3】秦公1号大墓	26
<b>第3節 前漢盜墓史</b>	32
(一) 漢の諸侯王墓	32
(一) の一 同姓諸侯王陵墓の発見と発掘—楚王陵墓群	33
北洞山楚王墓 / 獅子山楚王墓 / 龜山楚王、王后陵	
(一) の二 同姓諸侯王陵墓の発見と発掘—中山王墓	40
滿城漢墓	
【コラム4】金縷玉衣	42
(一) の三 同姓諸侯王陵墓の発見と発掘—魯王墓群	46
九龍山漢墓	
(一) の四 同姓諸侯王陵墓の発見と発掘—長沙諸侯王墓	47
(一) の五 異姓諸侯王陵墓の発見と発掘	49
南越王墓 / 獅子山楚王墓 / 龜山楚王、王后陵 /	
(二) 『史記』貨殖列伝が伝える漢代盜墓事情-「民盜」	56
(三) 盜墓マニア広川王劉去	58
<b>第4節 前漢末至後漢盜墓史</b>	63
(一) 赤眉軍、前漢皇陵をあばく	63
【コラム5】大葆台漢墓—黃腸題湊	71

<b>第5節 後漢末至三国盜墓史</b> .....	74
(一) 董卓、呂不を指嗾す .....	74
(二) 曹孟徳、盜墓専門チームを編成す .....	77
(三) 一代の姦雄薄葬を求む .....	84
(三) の一 薄葬思想の変遷—『墨子』 .....	90
(三) の二 薄葬思想の変遷—呂不韋『呂氏春秋』 .....	92
(三) の三 薄葬思想の変遷—前漢文帝 .....	94
前漢文帝薄葬令	
(三) の四 薄葬思想の変遷—王充『論衡』 .....	98
(三) の五 薄葬思想の変遷—魏(三国) .....	100
魏文帝曹丕「終制」	
【コラム6-1】冥婚 .....	111
【コラム6-1】冥婚〈続〉 .....	115

## 第2章 魏晋南北朝盜墓史

<b>第1節 魏晋南北朝盜墓史</b> .....	118
(一) 長沙王吳芮墓後日譚 .....	118
(二) 鐘繇、韋誕の墓をあばいて蔡邕の書を盗む .....	119
(三) 嵇康「広陵散」を伝授さる .....	120
銀雀山漢墓	
(四) 盜掘の落とし子—「汲冢書」 .....	123
(五) 劉表墓の香气数十里に達す .....	129
(六) 霸陵、杜陵、薄太后陵も例外たり得ず .....	131
(七) 齊桓公、安眠を得ず .....	132
(八) 魯肅、再降臨す .....	134
(九) 石虎、趙簡子墓をあばくも… .....	135
(十) 東海王の女、復活す .....	141
(十一) 桓温とその女の墓をめぐる話 .....	143
(十二) 簞綜の「父子鑑定」事件 .....	144
(十三) 謝安墓、あばかれる .....	148
(十四) 王頡、陳霸先墓をあばいて父の敵を討つ .....	151
(十五) 南北朝盜墓余話 .....	153

## 第3章 隋唐五代十国盗墓史

<b>第1節 隋代盗墓史</b> .....	156
(一) 隋文帝と独孤皇后 .....	156
隋文帝泰陵	
(二) 隋煬帝と蕭皇后 .....	160
<b>第2節 唐代盗墓史</b> .....	164
(一) 唐高祖薄葬を希望するも .....	164
唐高祖李淵献陵	
(二) 初唐、盛唐盗墓史 .....	166
(三) 中唐、晚唐盗墓史 .....	170
(四) 唐末至五代十国移行期盗墓史 .....	173
(五) 黄巢軍の置き土産? .....	174
<b>第3節 五代十国盗墓史</b> .....	178
(一) 温韜、唐十八陵をあばく .....	178
唐太宗李世民昭陵 / 唐高祖李治乾陵 / 章懐太子墓 / 永泰公主墓	
【コラム7】唐陵の玄宮 .....	212
前蜀王建墓 / 南唐二陵	
(二) 五代十国盗墓余話 .....	221

## 第4章 宋金元代盗墓史

<b>第1節 北宋、金盗墓史</b> .....	224
(一) 北宋盗墓余話 .....	225
(二) 李朝孺、国神比干の墓をあばく .....	227
(三) 金軍、北宋皇陵をあばく .....	232
(四) 金の傀儡皇帝劉豫、「淘沙官」を置く .....	235
(五) 朱漆臉(ケロイドの朱)、趙匡胤永昌陵をあばく? .....	240
宋太祖趙匡胤永昌陵	
【コラム8】防盜装置—「自来石」と封門の方法 .....	250
<b>第2節 金、南宋盗墓史</b> .....	253
(一) 金、南宋盗墓余話 .....	253
<b>第3節 元代盗墓史</b> .....	256
(一) 楊璉真加、南宋皇陵をあばく .....	256
高宗趙構永思陵	
(二) 元代盗墓余話 .....	263

## 第5章 明清盜墓史

<b>第1節 明代盜墓史</b> .....	266
(一) 顯陵に忍び寄る影—宦官陳奉 .....	266
恭睿獻皇帝朱祐杭顯陵 / 神宗万曆帝定陵 / 定陵發掘記	
【コラム9】明の殉葬制度 .....	293
鳳陽明皇陵	
(二) 李自成反乱軍、鳳陽皇陵を焼く .....	295
(三) 李自成反乱軍、顯陵に襲来す .....	298
(四) 明藩王墓—遼簡王墓と梁莊王墓の明暗 .....	299
(五) 張献忠、楊嗣昌墓をあばいて恨みを晴らす .....	302
(六) 李自成反乱軍、明十三陵を焼く .....	304
(七) 明代盜墓余話 .....	307
<b>第2節 清代盜墓史</b> .....	309
(一) 乾隆帝、明永陵の楠木大柱をすり替える？ .....	309

## 第6章 民国盜墓史

(一) 昭陵六駿流出始末 .....	316
(二) 西府盜掘事件—民国の「曹操」党玉琨 .....	324
(三) 東陵大盜—孫殿英、乾隆帝裕陵と西太后定東陵をあばく .....	330
(三) の一 慈禧皇太后定東陵盜掘事件 .....	336
(三) の二 乾隆帝裕陵盜掘事件 .....	339
(三) の三 東陵大盜、露見す .....	341
(三) の四 東陵大盜軍事特別法廷 .....	347
(三) の五 慈禧皇太后定東陵随葬品目録 .....	348
(三) の六 乾隆帝裕陵随葬品目録 .....	351
(三) の七 孫殿英、生涯の痛快事を語り尽くす .....	352
(三) の八 東陵の宝物の行方 .....	354
(四) 悲劇の皇帝、安眠を得ず .....	355
(四) の一 光緒帝の死にまつわる謎 .....	357
(四) の二 光緒帝崇陵の發掘 .....	358
(四) の三 「金井」の發見 .....	363
(五) 瑾妃墓、あばかれる .....	365
(六) 李品仙、楚幽王陵をあばく .....	372
(七) 万娘墳、あばかれる .....	379
(八) 民国盜墓余話 .....	385
(八) の一 第2次東陵大盜 .....	386
(八) の二 第3次東陵大盜 .....	390
(九) 「魂兮歸来」汪兆銘墓爆破事件 .....	393

## 第7章 現代盗墓史

<b>第1節 80年代—「金持ちになるには墓をあばくに如かず」</b> ……………	400
(一) 墓泥棒による村おこし……………	402
(二) 山西侯馬市「侯百万」、「郭千万」2大盗掘グループ事件……………	404
<b>第2節 90年代—盗墓、猖獗す</b> ……………	408
(一) 唐燕德妃墓壁画盗掘事件……………	409
(二) 甘肅大堡子山盗墓狂想曲……………	412
(三) 北周武帝孝陵、あばれる……………	415
(四) 郭家崗1号墓の千年古屍遺棄される……………	418
(五) 唐莊陵石翁仲頭部切断事件……………	420
(六) 唐中宗定陵公主墓三彩盗難事件……………	422
(七) 邯鄲趙王陵2号墓盗掘事件……………	425
(八) 楚王山漢墓盗掘事件……………	429
(九) 唐恭陵の「娘娘墳墓」盗掘される……………	431
<b>第3節 21世紀—盗墓狂想曲鳴り止まず</b> ……………	436
【コラム10】現代化盗墓団……………	437
(一) 漢文帝霸陵陪葬坑連続盗掘事件……………	439
(二) 薊県古墓盗掘事件……………	441
(三) 洛陽警察、盗墓賊に屈す……………	443
(四) 唐武恵妃の石槨、故郷へ帰る……………	445
(五) 湖南最大盗墓事件……………	448
(五) の一 事件の概要……………	448
(五) の二 裁判……………	449
(五) の三 湖南最大盗墓事件と刑法改正……………	451
(六) 湖北随州盗掘大事件……………	453
(七) 新中国成立以来最大の盗掘事件解決す……………	459
<b>第4節 第4次盗墓狂潮期—現代</b> ……………	465
(一) データが語る現代盗墓事情……………	465
(二) 「そこに墓があるから掘る」—永遠に不会因为盗掘……………	470
 おわりに……………	473
 参考文献……………	476
古墓・遺跡 位置概略図……………	488

## はじめに

日本人と中国人は全く似て非なるものであるが、筆者はその大きな違いの一つとして、お互いの「あの世観」あるいは「靈魂観」を挙げたい。日本人の死生観には仏教が決定的な影響を及ぼし、死ねばみな阿弥陀に救済されて西方浄土へ行くという考えは、墓に対する深い思い入れを生まなかった。それに対して、死は魂（たましい）と魄（肉体）が分離することと考える中国人にとって、墓は魄が無事に土に帰るまでの大切な場所として認識されてきた。

古代エジプト人は魂の復活を信じ、来るべき日に備えて死体をミイラにして保存した。しかし、中国人は死者の復活などは信じていなかった。ただ漠然と魄は自然に腐朽し、最後は何もなくなってしまうことが理想と考えただけである。しかし、何事にも現実的な思考をする中国人にとって、そのような場所としての墓はまた死者の来世の生活の場所でもあった。彼らにとって、一体いつ何もかもなくなるのかは重要ではない。むしろそのときまで死者にどのような生活を送ってもらうのが重要なのである。

いったん墓が死者の来世の生活の場所と決まれば、あとは人為によって大きな影響を受けるのは自明の理である。まず周代においてあらかたの儀礼ができた。次に儒教の「孝」の徳目によって墓は死者のものだけではなくになった。人々は競って厚葬の風に走ったのである。当然、巨大な権力や財力を持つものは、より大規模な墳墓を営み、豪華な副葬品を収めた。

人はなぜ墓をあばくのか？ それは中国の墓があばくに値したからである。盗掘は早くも新石器時代後期に身分格差が生じ出してから発生した。秦の宰相呂不韋は「亡びざるの國無ければ、これ掘られざるの墓無きなり」と言って薄葬を提唱した<sup>1</sup>。司馬遷は漢代に盗掘が普遍的に行われ、中には盗掘によって身代を築いた者もいたと記している<sup>2</sup>。

盗掘は昔も今も必ずしも倫理的に芳しいことではない。よって、南北朝、五代、民国などの混乱期に多く発生し、現代もまた新たな猖獗期とすることができる。しかし、歴代の盗掘と現代の盗掘には大きな違いがある。現代の盗掘の目的は財貨の収奪が全てであると言って過言ではない。しかし、歴代の盗掘にはさまざまな事由があっ

---

1 呂不韋『呂氏春秋』卷10 毛冬記（三）安死

2 司馬遷『史記』卷129 貨殖列伝



た。いったい中国語の「盗墓」という言葉が日本語に翻訳不可能なように、墓をあばく行為の動機と目的には個々の人間によって大きな違いがあった。墓をあばいて死体に鞭打って私怨をはらすものもいれば、敵の祖先墓を破却して戦意を喪失させるものもいた。また、おのれの好奇心を満たすためだけに墓をあばくのも盗墓なら、百姓が生活のために陵園の樹木を切り倒すのも立派な盗墓であった。

しかし、「盗墓」の中身が特殊であればあるほど、時代を無視して語るができないのも事実である。かの三国志の英雄、魏の曹操も墓泥棒であった。しかもすこぶる付きの大泥棒であった<sup>3</sup>。また、民国時代の軍閥、孫殿英は清乾隆帝裕陵や西太后定東陵をあばいて副葬品を根こそぎ盗んだ。

盗墓について考えることは野史に属すると言えよう。それゆえ、中国でも今から十数年前にやっとまとまった著作が現れるようになった<sup>4</sup>。しかし、近年『鬼吹灯火』や『盗墓筆記』などの盗墓小説が相継いで出版されてベストセラーとなると、盗墓に関する書籍も雨後の竹の子のように出版された<sup>5</sup>。ただ残念なことには、その何れもが曹操や孫殿英も独立した一つの事例として扱い、彼らが盗掘に至った事情のみならずその時代背景にまで踏み込んではいない。しかし、およそ人が何かをしでかすということは、実は行為そのものより、それをめぐる人間性、環境あるいは時代というものの考察を抜きにしては語れないはずである。ましてや、歴史的に記憶されるような事件であれば、なおさらである。

さらに、現状の著作では、盗むに値した陵墓とはいったいどのようなものであったのかについてほとんど触れていない。幸いにして中国は唯物主義の国であり、陵墓といえども学術研究を名目に不断の発掘調査を行っている。また整理が一段落すれば観光資源として積極的に一般に開放している。それゆえ、何れの陵墓においても考古学的資料には事欠かない。実際、中国人の来世観の変容は陵墓の形式や構造に大きな変化をもたらしたし、出土する文物は貴重な歴史的、文化的資料となっている。

以上、筆者が中国の歴史を縦軸に、各時代の盗墓のトピックを横軸にして、さらに陵墓の考古学的実像を加味した歴史を編む意義があると考えられる所以である。

岡島 政美

3 『後漢書』巻74上・袁紹列傳、三国志』巻6「魏書」袁紹傳

4 殷嘯虎／姚子明『盗墓史』（1997 上海文芸出版社）、王子今『中国盗墓史』（2007 九州出版社）

5 天下覇唱『鬼吹灯火』全8冊（2006 安徽文芸出版社）、南派三叔『盗墓筆記』全9冊（2007～2011 中国友誼、時代文芸、上海文化）

# 第1章 先秦兩漢盜墓史



## 第1節 中国古代喪葬習俗と殷墟の破壊

### (一) 中国古代喪葬習俗

古代中国では墳墓はさまざまな呼び方をされてきた。「墓」は地上に封土を置かない墳墓のことを指し、「丘」は墓の上の封土を指した。「丘」はまた「壠」(「壠」)、<sup>ちよう</sup>「冢」、あるいは「墳」と呼ばれた。「陵」は帝王の墳墓に対する呼び名である。一方、中国には「墓葬」という耳慣れない言葉があるが、これは死者を埋葬した地下空間、すなわち墓壙、墓穴であるところの墓の上に土を用いて墳冢(封土)を築いて、完全な「墳墓」を構成したものを言う。

さて、喪葬行為が発生した理由として、まず真っ先に肉親の情から来る思いやりの心が挙げられる。かつて孟子は次のような言葉を残した：

蓋し上世嘗て其の親を葬らざる者有り。其の親死すれば、則ち擧げて之を壑に委てたり。他日之を過ぐるに、狐・狸之を食らひ、蠅・蝻・姑之を嘍らふ。其の潏泚たる有り、睨して視ず。夫の泚たるや、人の爲に泚たるに非ず。中心より面目に達するなり。蓋し歸り、藁裡を反して之を掩へり<sup>1</sup>。

その意味は、上古の民は死者を埋葬せず、屍体を気の向くままに山や谷に棄てて事足りるとしていた。しかし、のちに人々は捨て置いた屍体が狐狸に食い散らかされ、無数の蠅やブヨのたかろのを見て心に忍びず、ついに屍体を埋めて墓葬が出現したという。『周易』繫辭下伝でも同じような記述がある：

古の葬る者は、厚く之に衣するに薪を以てし、之を中野に葬り、封せず樹せず、喪期に數無し。後世、聖人、之を易ふるに棺槨を以てす。蓋し諸を大過に取なり<sup>2</sup>。

大昔の墓葬は非常に簡単で、柴草を用いて死者を荒野に埋めて、墳丘を起さず、地面には何の目印も残さなかった。また喪に服するのにも一定の決まった期間もなく、ただ悲しみの尽きるまで哀しむのが喪であった。後世になって、聖人がそれをあらため、棺槨(二重のひつぎ)を用いるようになったという。

肉親の情と同じように重要な要素として靈魂觀念の発生がある。中国において靈

1 『孟子』滕文公章句上、内野熊一郎『新釈漢文体系 第4巻 孟子』(1962 明治書院)

2 今井宇三郎、堀池信夫、間島潤一『新釈漢文体系 第63巻 易経下』(2008 明治書院)

魂觀念は早くも原始時代に生まれていた。生きている人の靈魂は死後すぐに鬼魂（亡靈）に変わると考えられた。鬼魂は大きな力量を持っており、生きた人に禍や福をもたらすが、生きている人はこれをまったく制御できない。そこで鬼魂と交流して意思を疎通させる方法が考えられた。人々は、死んだ肉体のために儀式を行って埋葬し、死者をしのぶ心と思いやりを表すことにした。その結果、死者に対する哀惜の念を表明したり、生前の種々の心残りを埋め合わせることができた。同時に死者がその非凡な力量をもって、生きている人の幸福と平安を守ってくれるようにも希求した。

中国では今から約3万年前の旧石器時代晩期の（北京市周口店龍骨山北京人遺跡の）山頂洞人が最も古い墓葬の例を残している。そこでは洞穴中の上室を居室とし、下室を死者の墓地としていた。墓地からは老若男女数人の遺骨とともに種々の装身具や火打ち石などが見つかった。また、遺骨の傍らには赤鉄鉱の粉末がまかれていた。赤い色は鮮血を象徴し、なおかつ生命の源泉である。山頂洞人は赤鉄鉱をまいて、死者の復活やあの世での永続を願ったのかも知れない。

それから2万年以上経った新石器時代の晩期（約5000年～4000年前）、墓葬に大きな変化が生まれた。中国各地の母系氏族共同体は相次いで父兄氏族共同体へ移行し、氏族成員間に身分と貧富の格差を生んだ。まだ大多数の人々の墓坑は狭小で、葬具や随葬品がほとんど無かったのに対して、少数の人の墓穴は広々としていて、木製の棺槨葬具を用いるものが現れた。随葬品も日常生活用具や生産工具以外に、精巧で美しい非実用的な装飾品や祭祀用品が多数収められ、中には殉葬者や生け贄を献げるものもあった。ここにおいて墓葬もまた文明時代への移行を可能にする諸条件が整った<sup>3</sup>。

張学鋒氏によれば、一般に中国古代の墓葬の特徴は以下の3点に帰納させることができるという。すなわち、埋葬形式としては土葬を主とすること、墓葬には死者の生前の身分と地位に照らし合わせて厳格な等級制度があること、及び「死者に事<sup>つか</sup>ふること生に事<sup>つか</sup>ふるが如くす<sup>4</sup>」という喪葬觀念である。

このうち土葬に関しては屍体を埋めるやり方として最も自然な方法である。先の『孟子』滕文公章句上でも「孝子仁人」がその親の死体を土でおおい、ていねいに葬るということは当然の道であると続けているが、これは土葬が古代中国で長い間採用された埋葬形式であると同時に、「孝道」の觀念と密接に関係していることを表している。孝道実践の重要な手段としての土葬を支えてきたのが中国の伝統的な魂魄思想である。人々の觀念中で、人の「靈」は2種類に分けることができる、すなわち「魂<sup>こん</sup>」と「魄<sup>はく</sup>」である。魄は肉体と不可分の精神で、おそらく人体の感覚と言うこともでき、肉体が

3 周蘇平『中国古代喪葬習俗』（2004 陝西人民出版社）

4 『礼記』祭儀24 竹内照夫『新釈漢文体系 第28巻 礼記（中）』（1977 明治書院）

なくなれば魄もこれに随ってなくなる。しかし、魂は肉体の存在とは独立していて、たとえ肉体がなくなっても魂は永遠になることはない。いわゆる生とは、魂、魄の両者が結合したもので、死は両者の分離と見ることができる。したがって、人が死んだ後、肉体がなお存在しておりさえすれば、魄の感覚は依然として存在することとなり、その完全な消失は肉体が自然に朽ちるまで待たねばならない。それゆえ、肉体をできるだけ長い間保存するためには、できるだけ深く埋めて、棺槨や衣衾を多く重ね、さらに玉衣や殮具と木炭、青膏泥、白膏泥、三合土などを用いて密封防腐することに努めたのである。

墓葬の等級制度に関して、階級社会に入った後、天子、諸侯、卿大夫、士、庶民で死者の生前の身分地位が完全に墓葬上に反映され、死後の地下世界の等級は厳然としたものとなった。

夏や商（殷）時期には、はっきりとした文献記載こそないが、殷墟はじめ多数の考古学的発掘成果より、これらの時代にも墓葬の等級制度は存在したことがわかっている。古代の文献が記載する墓葬の等級制度の多くは周代に始まった。秦漢以後はその基礎の上に立ち、時代の要請に従って「喪礼」、「喪制」或いは「凶礼」、「凶制」と呼ばれるまとまりのない制度が作られた。それは、例えば人の死から斂殯、出殯、埋葬、日常祭祀、墓冢の高さから、冢域の広狭、神道石刻の種類、墓室の形や構造とその大小、棺槨の形や構造とその組み合わせ、墓田の多寡等々に至り、およそ喪葬と関係したもので規定を作らないものはなかった。

規定の中には詳細を究めたものもあり、それは当時の人々が葬事を行う際の指導方針であるとも言えるし、また人々が葬事を行うときに必ず遵守しなければならない基本原則でもあった。例えば、周代の棺槨の重ね制度に関して、『礼記』檀弓篇では「天子の棺は四重、水兕革の（水牛の革で）（最も内側の）棺は之を被す、其の厚さ三寸。柩棺（白楊の棺）一、梓棺（梓の棺）二。四者皆周らす（釘を使わず）<sup>5</sup>」と述べる。これは礼制上、周の天子の墓葬中の棺槨の数量を規定したものと言えよう。天子以下の諸侯、卿大夫、士にはその生前の身分と地位によってまた相応の規定があった。例えば『荀子』礼論篇中では「天子は棺槨十重（七たびの誤り）、諸侯は五重、大夫は三重、士は再重<sup>6</sup>」と述べ、『莊子』雜篇でもまた「天子は棺槨七重、諸侯は五重、大夫は三重、士は再重なり<sup>7</sup>」と述べる。一般的には「天子の棺槨は七たび重ねる」は「三槨四棺」に、「諸侯は五たび重ねる」は「二槨三棺」に、「大夫は三たび重ねる」は「一槨二棺」に、「士

5 『礼記』檀弓上第三、竹内照夫『新釈漢文体系 第27巻 礼記（上）』（1971 明治書院）

6 『荀子』巻第13 礼論篇第19、藤井専英『新釈漢文体系 第6巻 荀子（下）』（1969 明治書院）

7 『莊子』雜篇 天下第33、市川安司、遠藤哲夫『新釈漢文体系 第8巻 莊子（下）』（1967 明治書院）

は再び重ねる」は「一槨一棺」にそれぞれあたると考えられている。随葬品の種類と数量もまた墓葬の等級の重要なしるしであり、例えば鼎と簋の2種類の重要な随葬器物に関しては、天子は九鼎を用い、諸侯は七鼎を用い、卿大夫は五鼎を用い、士は三鼎或いは一鼎を用いた。鼎と簋は組み合わせて使用し、数量にもまた明確な規定があり、九鼎は八簋を用い、七鼎は六簋を用い、五鼎は四簋を用い、三鼎は二簋を用いた。鼎は奇数を用い、簋は偶数を用いた。この他に、随葬の車馬、楽器など、等級上の格差がないものはひとつとしてなかった。

以後、秦、兩漢、兩晋になっても、帝王貴族の喪制規定が依然として葬礼中の大部分を占めていたものが、唐代には庶民の墓葬の等級にもまた規定が作り出されるようになった。そこでは随葬品の数や品質、あるいは墓や葬具について細々と規定されたが、考古学的発掘の事例から見て、必ずしも厳格には守られなかったようである。ともあれ、時代や社会がどのように変遷しようとも、中国では長い間、身分と地位が違えば、死後も必ず生前の身分や地位に基づいて地下世界も経営されたという事実がある。

最後に、いわゆる「死者に事ふること生に事ふるが如くす」ということの意味は、死者に対しても、その生前と同じように対処せねばならないということであり、それはまた、人は死後もまたその生前と同じように生活することができるということを目指す。荀子は「葬禮なる者は、生者を以て死者を飾るなり。大いに其の生に象りて、以て其の死を送る。故に死せるが如く生けるが如く、存するが如く亡するが如く、終始一なり<sup>8</sup>」と語っている。その意味は、葬礼の本質とは、死者を生きている人のようにして修飾することである。死者を生きている時に対する形式待遇をもって送るのである。故に死んでいるようでもあり生きているようでもあり、ここに居るようでもあり、居ないようでもあり、生死を通して終始一貫していなければならないということである。この種の喪葬観念は墓葬中で表現された。力を尽くして豪華な墳墓を営み、墓室を飾り、身分と地位を表した礼器に、各種の日常生活用品、家屋楼閣、男女の陶俑、厨房、家畜、家禽等の明器をいっしょに葬った。死後が生前の延長と考えれば、地下世界においても、あるべきものは何でもあるようにして、死者の生前のあらゆる生活面での需要を満たさねばならなかった。しかもなお、死者の生前の身分と地位が高ければ高いほど、維持すべき地下世界の生活水準も高かったことは言うまでもない<sup>9</sup>。

さて、孟子、荀子、莊子は何と言っても戦国時代の人であり、本当に先史時代から中国の墓葬が彼らの言うようなものであったかどうかはわからない。その間隙を埋めるのが考古学の役割である。これまでに中国では数千、数万の旧石器時代や新石器時

8 『荀子』卷13 礼論篇 第19、藤井専英『新釈漢文体系 第6巻 荀子(下)』(1969 明治書院)

9 張学鋒『中国墓葬史(上)』(2009 広陵書社)より引用

代の墓葬が発掘されてきた。中には明らかに「盗墓」の憂き目にあっただと思われるものも多数ある。屍体が意図的に傷つけられたり、移動させられたりしたものもあれば、あるべき随葬品がまったくなかったり、墓坑が徹底的に破壊されているというような具合である。しかし、同じ「盗墓」でも、発掘結果だけでそれが単なる物取り、復讐、懲罰を目的としたものであったのか、あるいはもっと我々のうかがい知れない呪術的、祭祀的理由によるものであったのかを見分けることは難しい。なぜならこの時代は現代とあまりにも隔絶しており、我々は当時の人々の行動心理を読み解くすべを持っていないからである。そういう意味では、盗掘、破壊の事実がはっきりしている最も古い墓葬としては殷墟まで下らねばならない。

## (二) 殷墟の破壊と盗掘

### ① 殷墟

殷（～前1046年）は考古学的に実在が確認されている中国最古の王朝で、商とも呼ばれる。伝説上、殷の始祖は啓とされている。啓は帝舜のときに禹の治水を援けた功績が認められ、帝舜により商に封じられ子姓を賜った。以後遷都を重ねたが、天乙（後の湯王）のときに河南の亳（現在の河南省商丘市）に都を置き、夏の桀王を倒して殷王朝を建てた。それから19人の王が続いて都も遷したが、19代目の王盤庚に至って再び亳に都を定めた。これが現在の殷墟である。盤庚以後、8代12王が続いたが、最後の紂王（帝辛）は妲己を寵愛して暴政を行い、周の武王に牧野で敗れて殷は滅亡した。

殷社会は邑と呼ばれる氏族ごとの集落を基本単位とし、数千の邑が数百の豪族や王族に従属していた。殷王はこれらの氏族によって推戴された君主であったが、同時に最高のシャーマンとされた。歴代の殷王は王権と神権によって専制化を強めていったが、最後は大量の戦争捕虜を生け贄に捧げる慣習が周辺氏族の恨みを買って反乱を招き、滅亡の原因となったとされる。

殷墟の発見の裏には面白い話が伝わっている。1899年、金石学者の王懿榮は北京市内の漢方薬店で購入した龍骨（漢方薬の一種の骨）に古い文字が刻まれていることを発見し、考証の末、殷人が刀を用いて刻みつけた文字ではないかと考えた。1900年、義和団の乱が起これ、八カ国軍が北京へ侵攻したときに王懿榮は自殺した。彼が収集した龍骨（甲骨）はその子から晩清の学者の劉鶚の手に渡った。1903年、劉鶚は収蔵する甲骨を『鉄雲蔵龜』として編纂出版した。1908年（一説では1910年とも）、羅振玉は八方手を尽くして甲骨が小屯村から出たものであることを突き止めた。彼は甲骨文字の解読を進め、この村は伝説上の殷王朝の存在していた場所ではないかと推察した。1917年、王国維がさらに研究を進めて商王一族の系譜をまとめ、小屯村が盤庚の都城であると証明した。

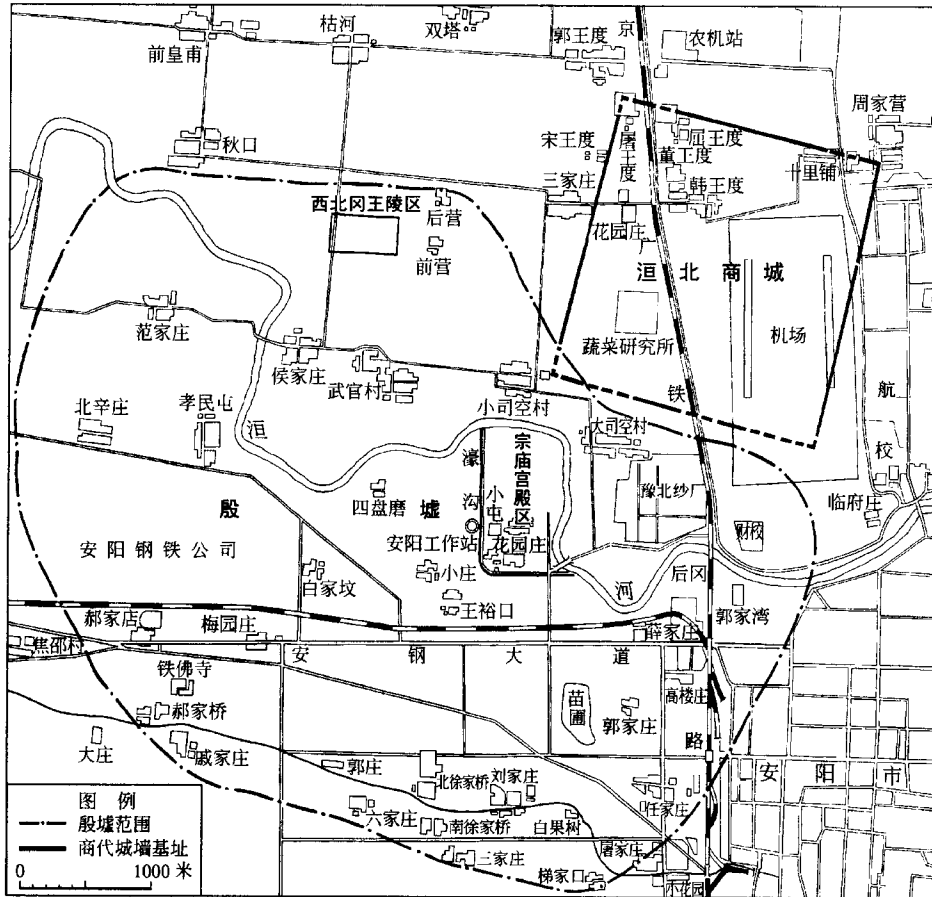


図1：殷墟平面図

殷墟は河南省安陽市に位置する殷王朝後期の遺構である。盤庚から帝辛時期にかけて殷王朝の首都であったと考えられている。殷墟は1928年から日中戦争で中断する1937年まで15回発掘調査された。発掘は1950年に再開されたが、現在調査が進んだ殷墟の遺跡は、その中央を東西に蛇行して流れる洹河の南北36km<sup>2</sup>の広大な範囲に広がる。殷墟は大別して洹河南岸の小屯村と花園莊付近の宗廟宮殿区と、洹河北岸の侯家莊と武官村付近の王陵区の2つの遺跡に分かれる。

宗廟宮殿区は商王が政務を執り居住した場所で、殷墟を構成するもっとも重要な遺跡である。宮殿、宗廟を含め80余基の建築遺跡が残っている。一方、王陵区ではこれまでに13基の大型墓が発掘されており、その多くは殷王の墓と推定されている。何れも地下15m前後も掘り込まれた竪穴式の大型土壙墓である。さらに、これら大型墓の周囲には2000余基の陪葬墓、祭祀坑と車馬坑が見つかった。中でも祭祀坑は1000基をはるかに超え、斬首された人骨を伴うものが多いのが特徴である。

殷墟の出土遺物には、甲骨のほか、青銅器、玉器、陶器、骨器などがある。特に青





写真1：殷墟宗廟宮殿区



写真2：殷墟王陵区

銅器は中国における最も盛行した時代の逸品が出土している。中でも、現在中国国家博物館に収蔵されている「后母戊」青銅鼎（司母戊方鼎）は中国最大の青銅器とされ、重さ833kgもある<sup>10</sup>。

さて、何毓靈氏によれば、殷墟の王陵は2段階にわたって壊されたという：

周人は殷を滅してすぐ「三監」を設け、紂王の子の武庚に引き続き殷の祭祀を行わせて社会の安定を図った。しかし、それだからと言って殷都が何ら被害を受けなかったわけではない。『逸周書』世俘編では、武王が商の宝玉1万4000、佩玉18万、あるいは殷王の青銅鼎を略奪したことが記されている。また周王は当時自分が「天命を承けた」身であることを宣揚するためにも、あえてほし

ままに殷の宝物を奪い取ったことは考古学的発掘が証明している通りである。山西省の北趙晋侯墓、河南省三門峡の虢国墓地、陝西省韓城梁带村の芮国墓地では均しく殷墟晩期の玉器が発見されている。また、陝西省戴家湾出土の銅器の大部分の年代は商末周初である。これは殷の器物を宗彝（宗廟で祭りのときに用いる祭器）として分けた結果とする学者もいる。このように宝物を略奪した以外に、建築物を焼き払うというようなことをした可能性もある。王陵の上に坑を掘って墓を築いたり、夭折した嬰児を埋葬したりしたのも、心理的に殷人に手ひどい打撃を与える目的だったと考えられている。

周による表向きの懐柔策は必ずしも社会の長期的な安定にはつながらなかった。武王は紂王を伐って2年後に崩御し、年少の成王が後を継いだ。（武王の異母弟の）周公旦が成王を補佐することになったが、これが（武庚を監視する）異母兄の桓叔鮮らの猜疑を招き、乱が発生した。いわゆる三監の乱である。周公は2度目の東征を敢行して乱を平定し、武庚と桓叔鮮を誅殺した。これによって殷人の勢力も完全に瓦解し、周王

10 中国社会科学院考古研究所『殷墟的発現与研究』（2007 方志出版社）

朝は二度と殷の遺民を安撫する必要はなくなった。しかも殷人の頑固な勢力を心理的に打倒したことで、殷の王族や貴族の墓を徹底的に破壊することに何の障害もなくなった。こうして殷の王陵と言わず貴族墓と言わず、ことごとく盗掘の憂き目にあった。同時に周は殷の遺民を分封して他所に移したので、殷墟は何の変哲もない集落に変わっていった<sup>11</sup>。

## ② 婦好墓

これまでに殷墟の王陵区では13基の大型墓が発掘されているが、そのうち最大規模を誇るのが武官村大墓である。平面は「中」字形を呈し、面積は約340m<sup>2</sup>あり、殉葬者は41人を数えた。このほか「甲」字形の大墓なども確認されているが、こうした大型墓は何れもみな盗掘に遭っている。しかし、1976年、宗廟宮殿区から発見された婦好墓は、規模こそこれら王陵に比肩すべくもないが、殷王族の墓の中では唯一盗掘を免れた希有な例である。しかも婦好墓は甲骨文の記載と照らし合わせて、被葬者の明確な身分と正確な埋葬年代を確認できる唯一の墓でもあった。

婦好墓は南北5.6m、東西4m、深さ8mの長方形の竪穴墓である。墓室の上部に墓坑とほぼ同じ大きさの版築による建築址が残っていたが、おそらく祭祀用建築（享堂）のものと思われる。遺体は木製の棺槨に収められていた。そのうち木槨は長さ5m、幅3.6m、高さ1.3mであったが、地下水によりほとんど壊れてしまっていた。漆塗りがほどこされた木棺と被葬者の遺体はともに腐敗していたが、棺の上部に麻布と薄絹が付着していた。

婦好墓では合わせて16人の殉葬者が確認されている。その内訳は、腰坑（被葬者の



写真3：司母戊方鼎  
(中国国家博物館蔵)



写真4：婦好墓享堂（復原）

11 何毓靈「殷墟王陵早期被盜年代研究」（『考古』2014年第6期より引用）



写真5：婦好墓墓室（復原）



写真6：婦好鸛尊（中国国家博物館蔵）

腰の下に設けられた犠牲坑)に1人、東壁の龕がんに2人、西壁の龕に1人、さらに槨上部の墳土中に4人、槨と棺の間に8人である。ほかに犠牲の犬が腰坑に1匹、槨上部の墳土中に5匹埋められていた。一般に腰坑の犠牲は犬である場合が多く、殷（商）民族固有の習俗とされる。

副葬品は、青銅器、土器、骨器、玉器、象牙製品、貝製品など、合わせて1928点に上り、ほかにタカラ貝6800点、ホラ貝2点が出土している。そのうち、青銅器は槨内に、玉器と貝製品は主に棺内に置かれていた。墳土中からも、土器の爵しやく、玉簋ぎよくき、石磬せきけい、象牙の杯ぎよくきゆう、玉臼かんざし、石牛、骨製の簪やじり、鏃などが出土した。

青銅器は全部で460点以上あり、そのうち礼器が210点と最も多く、次いで武器、楽器、道具、雑器などがあった。銘文が鑄込まれた青銅器も少なくなく、中でも「婦好」の銘を持つものが109点も出土した。礼器には、方鼎、円鼎、偶方彝ぐうほうい（方彝は角張った酒を盛るための器。偶は2点の方彝が合体したような横長の意）、三聯甗さんれんげん、簋、尊、方罍ほうらい、壺かう、甗か、觥か、罍こ、盤などがあり、当時存在した全ての器種が揃っていた。中でも偶方彝は、高さ60cm、幅88.2cm、重さ71kgで、上部の形は殿堂の屋根を思わせ、器底に「婦好」の銘があった。また三聯甗は長方形の器身に足が6本つく甗の台の上に大型の甗が3つ乗った形で、台、甗の内壁及び耳の下に「婦好」の銘があった。その他、ともに2器1対で出土した婦好鸛尊ふこうがくそんと司母辛四足觥しほしんしそくかうが注目される。

青銅製の武器は130点出土しているが、殷の王権の象徴とも言うべき鉞えつ（まさかり）



写真7：婦好墓出土の玉人1  
(中国社会科学院考古研究所蔵)



写真8：同玉人2  
(中国社会科学院考古研究所蔵)

は大型、小型各2点、合わせて4点あった。大型の鉞は、長さ39.5cm、幅37.3cm、重さ9.5kgで、やはり「婦好」の2文字が鑄込まれていた。さらに「戈」が90余点と、手斧、鑿、刀、スコップなどが44点、青銅鈴が18点出土した。また円形で中央に鈕（ひもとおし）のつく銅鏡が4点出土した。

玉器は750点出土したが、大部分は新疆産の軟玉製であった。琮、圭、璧、環、璜、戈、矛、戚、鉞、斧、スコップ、臼、杵、盤、櫛など、何れも浮き彫りと丸彫りを駆使して作られていた。とりわけ、2体の丸彫りの玉人が注目される。同じひざまずいた玉人でも、1体は着飾って靴をはき、尊大な様子で貴族のようにみえるのに対して、もう1体の玉人は、衣服はつけているが裸足のままで、女奴隷のようにみえて好対照を成している。この他に多種多様の鳥獣、昆虫、龍、鳳凰などをかたどった玉も多数出土している。さらに殷の飲酒文化を象徴する象牙の杯が3点出土した。そのうちの1点は、青銅器と同様、鳥文、饕餮文、夔龍文や雷文で華麗に装飾されていた。

この墓の被葬者である婦好の名は、武丁期の卜辞にしばしば登場し、夷方、土方、羌方、巴方などの方国（地方の部族国家）を征討した輝かしき女性の英雄である。卜辞と青銅器の銘文によれば、婦好は武丁（第12代の王）の妻であったと考えられ、墓の年代は殷墟2期、すなわち紀元前13～12世紀にあたっている<sup>12</sup>。

12 黃石林、朱乃誠著、高木智見訳『中国考古の重要発見』（2003 日本エディタースクール出版部）より引用

### (三) 厚葬の淵源

有史以来、中国で墓の盗掘が絶えないのは墓が盗むに値したからである。「盗むに値した墓」にしたものは、靈魂不死の観念と、その上に成り立った死を生の如く視る葬制が挙げられる。さらに、儒教の「孝」という徳目の影響もまた大であった。もちろん、権力や財力も厚葬を助長した大きな要因の一つであることは間違いない。しかし、それは結果論であって、事由とは言えない。なぜなら、戦国時代の思想家・墨子は早くも『墨子』第25節葬編の中で、「厚葬久喪を認めれば、天子諸侯は巨大な陵墓を築き、豪華な副葬品を準備するために民を苦しめるであろう。そして、これは匹夫賤人でも同じことで、死者があると（やはり厚葬して）殆ど財産を使い果たすだろう」と警告しているからである。ここでは墨子ははっきりと儒家を厚葬久喪論者として名指しして非難しているわけではない。しかし、当時墨家と思想界を二分していた勢力の儒家を念頭に置いた議論であることに間違いはない。

『論語』の中で孔子は、最高の道德として「仁」を強調した。仁とは人を愛することであり、そこから仁愛ということばも生まれた。しかし、この仁愛は無差別の博愛ではなく、近親への愛に最も重点を置いた差別愛であった。これは孔子が普遍的な道德であるはずの仁の根本に「孝」を置いたことにも現れている。孔子の政治的理想は、家族道德である孝の精神に立脚した道德国家の再建ということにあった。そして、それは孔子の意識においては、周の建国の精神に返ることでもあった<sup>13</sup>。既成の秩序を前提として「修身、濟家、治国、平天下<sup>14</sup>」を論じる儒家が、すでに周で確立された葬礼を重視するのは当然であり、そこに「孝は百行の本<sup>15</sup>」と言われる精神が加わればどうなるかは自明の理である。

上田健次郎氏によれば、中国では古代より死後の無への不安が死生観の通底にただよっているように見えるということである。儒教の場合は、死者の靈魂のゆくえや死者の鎮魂といった議論があまりなされず、むしろ子供など生き残った者が親たち死者に対して取る態度の倫理性が問われているという。これは人間の靈魂の永続を個人単位で見ずに、血統の中に見出すがためである。親を見送った子も何れ死んでいくが、それを祭る側が交替で連続していくことで永続性を保とうとする思考がここにあるという。血肉を分けた男子を生むことが父祖に対する最大の孝になる所以である<sup>16</sup>。しかし、同じ死んだ親を祭るにしても、できるだけ豪華にすれば、それだけ親の魂も感

13 森三樹三郎『中国思想史(上)』(1978 レグルス文庫)

14 『礼記』大学

15 班固『白虎通』巧黜

16 上田健次郎「中国の死の思想」(『東洋の死の思想』2006 春秋社)

応してくれると考えるのもまた人情の常である。さらに、祭りには常に他人に見せるという側面もある。後の漢代の孝廉こうれんの制に見るごとく、葬祭はいつでも自己の「孝子」ぶりを見せつける絶好の舞台でもあったのである。かくして天子諸侯はその権力と財力にあかして、また庶民は庶民なりに贅をこらして墓を飾り、豪華な副葬品を贈ったのである。

最後に、もともと礼楽を重んずる儒家は冠婚葬祭の専門家であり、春秋戦国時代からその特技を活かして各地を巡歴するものがいた。中には半ば墓泥棒を生業とする不逞の輩もいたという<sup>17</sup>。ともあれ、後世「葬送儀礼を抜きにして、儒家は存在しえない<sup>18</sup>」あるいは「孔子は葬儀屋であった<sup>19</sup>」と評される原点がここにある。なお、儒家は前漢時代に国教となって以降、とりわけ後漢時代に中国の葬祭シーンを完全に支配するようになるが、それはこれよりずっと後のことである。

## 第2節 春秋戦国至秦末盜墓史

### (一) 伍子胥、屍を鞭打って恥を雪ぐ

中国の盜墓史上、ほとんどの盜墓者の目的は、墳墓を盜掘して墓葬中の財貨を盗み取ることにあつたが、中には仇を討って恥をそそぐ目的の者もいた。もっとも有名なのは伍子胥ごししよが楚の平王の墓を掘り返し、屍体に鞭打って私憤を晴らした一事である。

伍子胥(?～前484年)は、春秋末期・呉の政治家、軍人である。諱は員いみな、字は子胥、春秋楚国の人。一説には現在の監利県の人ともいう。

伍子胥は中国の史書で取り上げられることが比較的多い人物の一人であり、本来は歴史上の有名人である。同時に、彼が引き起こした事件は、中国盜墓史上でも、もっとも有名な事件の一つである。その事件の淵源は、彼が呉国に奔る前に、楚の平王に対して抱いた深い恨みにあつた。

伍子胥の父は伍奢ごしやと呼ばれ、平王の子・太子建の太博(侍従長兼教育係)を務める清廉直諫の人として知られていた。兄は伍尚ごしやうと呼ばれる。楚では太子の建に秦から嫁を貰うことになり、少傅(副侍従長)の費無忌ひむきが秦まで迎えに行った。しかし、費無忌は姫の美しさを見て、むしろ平王の歓心を買うことを思いついた。費無忌の目論見通り、平王は姫を側室にし、太子には別の女性を与えた。こうして、費無忌は太子付きから、平王の側近に取り立てられた。しかし、太子の仕返しを恐れた費無忌は、盛

17 『莊子』外物篇

18 加地伸行『儒家とは何か』(1990 中央公論出版社)

19 白川静、梅原猛『呪の思想』(2011 平凡社)

## おわりに

北邙山頭閑土少なし、<sup>ことごとこ</sup>盡く是れ洛陽人の舊墓……

と唐代の詩人、王建が詠ってから1200年近くが経つ。その間、数え切れないほどの墳墓が築かれ、また毀された。呂不韋や曹丕が言うように、倒れない王朝がないのと同様、あばかれない墓はない。中国では俗に十の墓のうちの九つが、百の墓のうちの九十九があばかれているという。

筆者が初めて中国へ行ったのは1983年のメーデーのころであった。「中国江南の旅1週間」と銘打ったプログラムには南京の明孝陵の参観も含まれていたが、そのとき特に何か感じたという覚えはない。当時筆者の関心はもっぱら中国陶磁にあり、欧米に出かけても、むしろそれぞれの地の中国陶磁コレクションを熱心に見て回っていたぐらいである。しかし、まもなく中国陶磁の歴史において、実は俑を含めた墳墓の随葬品が重要な位置を占めていたことを知るようになる。となれば、美術館や博物館に展示されているものだけではあきたらず、これらが実際にはどのように墳墓の中で随葬されていたのかを知りたいというのが人情である。

90年代も半ばになって、中国の未解放地区の立ち入り制限もほとんどなくなった。外国人に対する二重価格制も、煩わしい兌換券システムもなくなった。何より、バス、タクシーを含めて交通事情が格段に良くなった。いよいよ不自由な団体旅行から解放されて、個人旅行が楽しめる環境が整ったのである。しかし、何回か個人旅行を試行して問題に突き当たった。中国では上海や北京を除いて英語がほとんど通用しなかった。陵墓のほとんどは辺鄙な農村にある。片言の中国語でも話せなければ全くのお手上げである。仕方なく中国語の手習いを始めた。数年後、いちおう意思は通じるようになったが、あいかわらず陵墓巡りに関する情報や資料は乏しかった。中でも日本の20数倍もある広大な国土で、目的の陵墓をピンポイントで探り当てるのに不可欠な地図情報は皆無に等しかった。いったい、地図を機密情報扱いする「大国」など聞いたことがない。やむを得ず、役立ちそうだと思ったものは片端から集めることにした。

こうして中原を中心に一つ一つ墓巡りを続けて行く内に、そのほとんどが盗掘されているという事実がいまさらながら驚くことになる。そのようなころ、タイミング良く殷嘯虎氏らの『盗墓史』や王子今氏の『中国盗墓史』が出た。両書によって初めて、実は「盗墓」には古い歴史があることを知った。そもそも「盗墓」という概念が

およそ日本人の想像を超えており、その動機や目的に至っては、もはや「文化」と称して十分差し支えないものであるとさえ思えた。こうなると、同じ墓を参観するにしても見方が全く変わってくるというものである。また、陵墓巡礼の範囲も自然と中原から河北、湖北、湖南、四川、内蒙古へと広がった。そして、ほとんどの陵墓を征服したころ、自分もいつか両書の間隙を埋めた日本版の『盗墓史』や『中国盗墓史』を書いてみたいと思うようになった。しかし、「言うは易く行は難し」という。そのためにはまだまだ越えなければならないたくさんのハードルがあった。

まず、これまで一知半解であった中国の歴史、なかんずく思想史と考古学について系統立てて学習する必要がある。次に、古文をそれなりに読めるようにもならねばならない。幸い家には一通り資料は揃っているし、退職して時間もたっぷりある。しかし、懶惰な性格だけは直しようがない。おそらく家で引きこもっているだけでは一日延ばしにして一步も前進しないであろう。そこで、一計を案じた結果、大学の卒論というシステムに載っかることにより、自らを追い込むということにした。これにより、前述の懸案もまた全て解決すると考えたわけである。

しかし、覚悟していたとは言え、春秋戦国から現代に至る盗墓の歴史を編む作業は想像以上に膨大な量に上り、脱稿には1年半を要した。その間、旅行にも常にパソコンを携行し、毎日少しずつ書きつないだ。幸い、筆者はいったん目標さえ定めれば、何かを継続して行うことは苦にしない性分である。しかし、もともと扱うテーマがテーマだけに、ときとして内容のきわどいものもある。伝聞の信憑性はもとより、史料にたった一行記述があるだけで、果たして真実と決めつけて良いものかどうか大いに悩まされた。結局、分からないものは分からないとする以外に方法はなかったが、おかげで大分忍耐力が付いたようである。また、論文を書くと言うことは、陵墓の見方においても変化をもたらした。これまでなら何気なく見過ごすところを、改めて問題意識をもって見て回ることによって、確実に要所を押さえることができるようになったのである。

さて、いったん墓があばかれると、そこに眠る遺骸にも悲惨な運命が待ち受けているということは誰もが自覚していた。それゆえ、古来の帝王のうちにも、豪華な墓を営むことの空しさを悟り、節葬や薄葬を説いたものもいる。しかし、それを本当に実践できたものはほとんどいない。実はこの一文をものにしようとした動機の一つは、そういう事情において、あえて彼らが豪華な墳墓の造営を止めなかった理由を明らかにしたいというものであった。しかし、その目論見は失敗に終わった。と言うよりも、実はそれを解明することはとうてい不可能であるという結論に至ったのである。

天子を例にとれば、陵墓の吉祥と喪葬の成否は国家の命運を左右するものであった。それゆえ春秋時代から繁縟な喪葬規定があり、陵墓の造営や喪葬の運営には数え



切れないほどの人が携わっていた。また、もともと天子の千秋に触れることは禁忌であったこともある。さらに、もっと重要なことは、易姓革命の社会においては、選ばれし王権が崩壊することなど誰も考えなかったし、また考えたくもなかったことがある。

なお、本稿のタイトルにはあえて「稿」の一字を付加した。理由は、特に現代編が拙速に過ぎ、本当に適切なトピックを選択したのか自信が持てないからである。とにかく広い中国のことである。現代の歴史的評価が定まるまでには、少なくともあと数十年は必要であろう。そういう意味では、別に【二十四史】のひそみに倣うわけではないが、いつか『中国盗墓史稿』から「稿」の一字が取れる日を期待して、当分は原稿という形で留め置きたいと考える。

最後に、本原稿の執筆に当たっては、阪南大学来村多加史教授には中国考古学と古代の喪葬制度に関して多々ご教示いただくと同時に、その著書内容を自由に襲用させていただいた。また、齢60にしてあらためて学んだ関西大学においては、吾妻重二教授のご指導の下、他の年若いゼミ生とともに楽しく卒論をまとめることができた。みなさまにはあらためて感謝致します。

岡島 政美

## 参考文献

## 【全体に関わる文献】

- 殷嘯虎、姚子明『盗墓史』(1997 上海文艺出版社)  
 王子今『中国盗墓史』(2007 九州出版社)  
 周蘇平『中国古代喪葬習俗』(2004 陝西人民出版社)  
 張学鋒『中国墓葬史(上下)』(2009 広陵書社)  
 倪方六『中国人盗墓史』(2009 上海錦繡文章出版社)  
 宮崎市定『中国史(上下)』(1977 岩波書店)  
 宮本一夫ら『中国の歴史(全12卷)』(2005 講談社)  
 稲畑耕一郎監修『図説 中国文明史(全10卷)』  
 (2006 創元社)  
 森三樹三郎『中国思想史(上下)』(1978 レグルス  
 文庫)  
 徐衛民ら『歴代帝后陵寢研究書系(全8冊)』  
 (2002 中国青年出版社)  
 黃石林、朱乃誠著、高木智見訳『中国考古の重要  
 発見』(2003 日本エディタースクール出版部)

## 【主な史料】

- 『墨子』、『孟子』、『莊子』、『荀子』、『韓非子』、『呂  
 氏春秋』、『易経』、『周礼』、『礼記』、『司馬遷『史  
 記』、『班固『漢書』、『范曄『後漢書』、『王充『論衡』、  
 陳寿『三国志』、『羅漢中『三国志演義』、『房玄齡  
 他『晋書』、『沈約『宋書』、『簾子顛『南齊書』、『姚子  
 廉『梁書』、『姚子廉『陳書』、『魏収『魏書』、『李百  
 葉『北齊書』、『令狐德棻他『周書』、『魏徵、長孫無  
 忌『隋書』、『李延寿『南史』、『李延寿『北史』、『劉昫  
 他『旧唐書』、『歐陽脩、宋祁『新唐書』、『薛居正他  
 『旧五代史』、『歐陽脩『新五代史』、『司馬光『資治通  
 鑑』、『脱脱『宋史』、『脱脱『遼史』、『脱脱『金史』、  
 宋濂他『元史』、『張廷玉『明史』、『趙爾巽等『清史稿』

## 【注釈書】

- 山田琢著、山田進編『新釈漢文体系33 墨子』  
 (2007 明治書院)  
 内野熊一郎『新釈漢文体系 第4卷 孟子』(1962 明  
 治書院)  
 市川安司／遠藤哲夫『新釈漢文体系 第8卷 莊子  
 (下)』(1967 明治書院)  
 藤井專英『新釈漢文体系 第6卷 荀子(下)』  
 (1969 明治書院)  
 竹内照夫『新釈漢文体系 第11卷 韓非子(上)』  
 (1950 明治書院)  
 楠山春樹『新編漢文選 思想・歴史シリーズ 呂氏  
 春秋 上』(1996 明治書院)  
 竹内照夫『新釈漢文体系 第27卷 礼記(上)』  
 (1971 明治書院)  
 竹内照夫『新釈漢文体系 第28卷 礼記(中)』  
 (1977 明治書院)  
 今井宇三郎、堀池信夫、間島潤一『新釈漢文体系  
 第63卷 易経下』(2008 明治書院)  
 山田勝美『新釈漢文体系 論衡(下)』(1984 明  
 治書院)  
 坂本太郎他校注『日本書紀』(1965 岩波書店)  
 市川宏ら『司馬遷 史記(全8卷)』(2005 徳間文  
 庫)  
 松枝茂夫、立間祥介『三国志(全5卷)』(1979 徳  
 間書店)  
 辛島驥、多久弘一『十八史略詳解(上下)』(2004  
 明治書院)

## 【辞典類】

- 王巍総編『中国考古学大辞典』(2014 上海辞書  
 出版社)  
 中国文物学界専門委員会主編『中国文物大辞典』  
 (2008 中央編訳出版社)  
 林劍鳴、吳永琪主編『秦漢文化史大辞典』(2002  
 漢語大詞典出版社)  
 中国大百科全書総編輯委員会《考古学》編輯委員  
 会『中国大百科全書・考古学』(1996 中国大百  
 科全書出版社)  
 孫機『漢代物質文化資料図説(増訂本)』(2012 上  
 海古籍出版社)  
 虞雲国主編『宋代文化史大辞典(上下)』(2006 漢  
 語大詞典出版社)  
 劉毅『中国古代物質文化史 陵墓』(2014 開明出  
 版社)

## 【その他の文献】

## 第1章

- 中国社会科学院考古研究所『殷墟的發現与研究』  
 (2007 方志出版社)  
 何毓靈『殷墟王陵早期被盜年代研究』(『考古』  
 2014年第6期)  
 班固『白虎通』巧黜  
 上田健次郎『中国の死の思想』(『東洋の死の思想』  
 2006 春秋社)  
 加地伸行『儒教とは何か』(1990 中央公論出版社)  
 白川静香、梅原猛『呪の思想』(2011 平凡社)  
 伊東美重子『敦煌写本「伍子胥変文」について：  
 その娯楽性』(2012-04-28 お茶の水女子大学中国  
 文学会報)  
 徐衛民『秦公帝王陵』2002 中国青年出版社)  
 鶴間和幸『始皇帝の地下帝国』(2001 講談社)  
 鶴間和幸『中国の歴史03卷 ファーストエンペラー  
 の遺産 秦漢帝国』(2004 講談社)  
 羅哲文著、杉山市平訳『中国歴代の皇帝陵』(1989  
 徳間書店)  
 来村多加史『唐代皇帝陵の研究』(2011 学生社)  
 東京国立博物館『中山王国文物展』(1981 日本経  
 済新聞社)  
 来村多加史 2013年作成資料  
 河北博物院編『河北博物院基本陳列－戦国雄風  
 古中山国』(2014 文物出版社)  
 『水経注』卷19 渭水下  
 王学理『秦始皇陵研究』(1994 上海人民出版社)  
 陝西省考古研究所、始皇陵秦俑坑考古發掘隊『秦  
 始皇陵兵馬俑坑1号坑發掘報告(1974-1984)』  
 (1988 文物出版社)  
 常勇、李同『秦始皇陵中埋藏汞の初步研究』『考  
 古』1983年7期  
 劉瑞、劉濤著『西漢諸侯王陵墓制度研究』(2010  
 中国社会科学出版社)  
 徐州博物館、南京大学歴史学系考古專業編著『徐  
 州北洞山西漢楚王墓』(2003 文物出版社)  
 王愷、葛明宇著『徐州獅子山楚王陵』(2005 生  
 活・讀書・新知三聯書店)  
 徐州漢文化風景園林管理処、徐州楚王陵漢兵馬俑  
 博物館編『獅子山楚王陵』(2010 南京出版社)

周学鷹『徐州漢墓建築－中国漢代楚（彭城）国墓葬建築考』（2001 中国建築工業出版社）

樋口隆康『古代中国を発掘する－馬王堆、滿城他－』（1975 新潮選書）

盧兆陰「試論兩漢的玉衣」（『考古』1981年第1期 p.52）盧兆陰「再試論兩漢的玉衣」（『文物』1989年第10期）

河南省商丘市文物管理委员会等編著『芒碭山西漢梁王墓地』（2001 文物出版社）

高崇文「試論先秦兩漢喪葬礼俗的演變」（『考古學報』2006年第4期）

石榮伝「兩漢諸侯王墓出土葬玉及葬玉制度研究」（『中原文物』2003年第5期）

河北博物院編『河北博物院基本陳列－大漢絕唱滿城漢墓』（2014 文物出版社）

湖南省博物館「長沙象鼻嘴一號漢墓」（『考古學報』1981年第1期）

西漢南越王博物館編『西漢南越王博物館珍品圖録』（2007 文物出版社）

飯島武次監修『中国・南越王の至宝－前漢時代広州の王朝文化』（1996 毎日新聞社）

広州市文物考古研究所「広州西村鳳崗西漢墓發掘簡報」（『広州市文物考古集』（1998 文物出版社）

吳海貴「南越与東越的諸侯王陵墓」（『華夏考古』2000年第4期）

『西京雜記』卷6「広川王古冢を發く」の条

王志傑『茂陵与霍去病墓石彫』（2005 三秦出版社）

『漢武帝内伝』

『関中勝跡図志』

北京市大葆台西漢墓博物館編『大葆台漢墓文物』（2015 文物出版社）

劉慶柱、李毓芳著、來村多加史訳『前漢皇帝陵の研究』（1991 学生社）

魯迅著、増田涉訳『魯迅選集第7卷』（1956 岩波書店）

『全三国文』卷3「魏武帝」

河南省文物考古研究所編著、渡邊義浩監訳・解説、谷口建速訳『曹操墓の真相』（2011 国書刊行会）

竹田晃『東洋人の行動と思想7 曹操』（1973 評論社）

林田慎之助『人間三国志 第五卷 詩人の憂鬱』（1990 集英社）

川合康三『曹操 矛を横たえて詩を賦す』（2009 筑摩書房）

吉川幸次郎『三国志実録』（1997 ちくま学芸文庫）

幸田露伴『墨子』「露伴全集第18卷」（1949 岩波書店）

閻崇東『西漢帝陵』（2007 中国青年出版社）

『古書図成・堪輿卷』

龐聯昌「世紀初的盜墓（中）」（『美文』2009年07期 美文雜誌社）

<http://news.sina.com.cn/s/2003-06-26/2251274410s.shtml> 西漢竇皇后墓陶俑回故里將陳漢景帝陽陵博物館 新華網西安

成瀬哲生『曹丕のことども：髑髏と感傷』1983-11-05 北海道大學文學紀要 32(1):163-198

『典論』論文・『文選』卷52

『日本書紀』大化2年（646年）3月22日条

王明清『揮塵錄』

王安石『將次相州』

陶宗儀『南村輟耕錄』

蒲松齡『聊齋志異』

羅漢中『三国演義』毛宗崗本

『通典』礼12

潘偉斌「曹操高陵今何在」（台湾・『月刊故宮文物』306』2008年9月号）

河南省文物考古研究所編著『曹操墓真相』（2010 科学出版社）

愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター編『曹操高陵の発見とその意義』（2011 汲古書院）

河南省文物考古研究所編著『曹操高陵』（2016 中国社会科学出版社）

陝西省考古研究院、乾陵博物館編著『唐懿德太子墓發掘報告』（2016 科学出版社）

<http://www.henan100.com/news/2016/667189.shtml>

安陽林州村民給兒子配冥婚正下葬棺材傳拍擊声 2016-1209河南一百度

## 第2章

『管子』牧民編

福元、史石『物語・中国の歴史(二) 英雄の時代 三国～随』（1983 講談社）

『異苑』卷7

池田温『世界歴史大系 中国2 三国～唐』（1996 山川出版社）

岳南著、加藤優子訳『孫子兵法發掘物語』（2006 岩波書店）

<http://www.chugainippoh.co.jp/editorial/2013/0122.html> 「棺の中に入れられた儒教の經典の『孝経』」2013年1月22日付 中外日報（社説）

『水経注』卷28「泗水」

『太平御覽』卷551礼儀部30・棺

湖南省博物館、中国科学院考古研究所編集、関野雄訳『長沙馬王堆一號漢墓（上）』（1976 平凡社）

商承祚『長沙古物聞見記』附録蔡季襄文（1996 中華書局）

『太平広記』卷389引『搜神記』

『太平御覽』卷558

『逸周書』諡法解

## 第3章

新華網頻道『考古学家首次探明隋文帝的陵园布局及結構』2011-03-24

潘偉斌『魏晉南北朝隋唐』（2004 中国青年出版社）

陳安利『唐十八陵』（2001 中国青年出版社）

『太平広記』卷171引「紀聞」

俞樾『茶香室四鈔』卷2

『太平広記』卷168氣義

袁牧『過始皇陵』

都穆『驪山記』

『乾州志稿』

『江南餘載』卷下

『唐会要』

陝西省文物局、上海博物館編『周秦漢唐文明特集・壁画卷』（2004 上海書畫出版社）

「中国西安、洛陽漢唐陵墓的調查与發掘」（『考古』1981年6期）

『隋唐考古』第4章（1996 南京大学出版社）

馮漢驥『前蜀王建墓發掘報告』（2002 文物出版社）

『陸氏南唐書』卷16 后妃諸王列傳 第13後主昭惠國后

「南唐二陵發掘簡略報告」（『文物』1951年07期）

南京博物院『南唐二陵發掘報告』(1957 文物出版社)  
 新華網「60年後再探南唐帝陵找到疑似“大周后”  
 的陵墓」2010-11-20  
 美国中文網「南京疑現南唐大周后墓」2011- 3 -31

#### 第4章

徐鉉『稽神錄』卷3「胡澄」  
 張師正『括異志』卷8「祖龍園」  
 張邦基『墨莊漫錄』卷7  
 小島毅『中国思想と宗教の奔流 宋朝』(2005 講談社)  
 『大金国志』卷27 開國功臣傳  
 河南省考古研究所『北宋皇陵』(1997 中州古籍出版社)  
 『大金国志』卷31「齊國劉豫錄」  
 韓澆『澗泉日記』卷上  
 『宋会要輯稿』礼 29の22  
 盛如梓『庶齋老學叢書』卷中上  
 文瑩『玉壺清話』  
 『宋会要輯稿』礼 32の5  
 程頤『代富弼上真宗皇帝論永昌陵疏』  
 李攸『宋朝事實』卷13「英宗永厚陵條」  
 『永定陵修奉采石記』  
 陳朝雲『南北宋陵』(2004 中国青年出版社)  
 龐中威『定陵發掘親歷記』(2002 学苑出版社)  
 胡漢生『明十三陵』(1998 中国青年出版社)  
 太原市文物考古研究所編『北齊婁叡墓』(2004 文物出版社)  
 山西省考古研究所、太原市文物考古研究所『北齊  
 東安王婁叡墓』(2006 文物出版社)  
 周密『癸辛雜識』統集 卷上「楊髡發陵」  
 陶宗儀『南村輟耕錄』卷4「發宋帝陵」  
 周密『癸辛雜識』後集「徽宗梓宮」「近者楊髡盜諸陵」  
 周密『癸辛雜識』別集 卷上「楊髡發陵」

#### 第5章

馮應京『月令廣義』  
 周紅梅『明顯陵探微』(2005 中国素質教育出版社  
 (香港))  
 龐中威『定陵發掘親歷記』(2002 学苑出版社)  
 中国社会科学院考古研究所『定陵掇英』(1989 文物出版社)  
 胡漢生『明十三陵』(1998 中国青年出版社)  
 『大明會典』  
 『朝鮮王朝世祖實錄』甲辰六年十月戊午  
 檀上寬『永樂帝－華夷秩序の完成－』(2012 講談社)  
 イ・インスク「朝鮮人の海外旅行」(『朝鮮日報日本語版』2011- 4 -24)  
[http://www.tqxz.com/zgqs\\_readme.asp?id=509](http://www.tqxz.com/zgqs_readme.asp?id=509)  
 明朝皇宮中的殉葬制度  
<http://baike.baidu.com/view/285417.htm> 殉葬\_百度百科  
 談遷『國權』卷99  
 『鐘祥縣志』卷20  
 鳳陽縣旅遊發展有限公司『鳳陽明皇陵建制与石刻  
 芸術』(2012 文物出版社)  
 湖北省文物考古研究所『梁莊王墓』(2007 文物出版社)  
 清人于敏中等編纂『日下旧聞考』卷132引清康熙二  
 年「聖祖仁皇帝御制金太祖世宗陵碑文」  
 北京文物研究所編『北京金代皇陵』(2006 文物出版社)

『清高宗實錄』卷1226、卷1276  
 張振光『中国古代建築圖片庫 帝王陵寢』(2011 中国建築工業出版社)

#### 第6章

足立喜六『長安史蹟の研究』(1933 東洋文庫)  
 稀琳「関与昭陵六駿被盜真象の幾個問題」(『碑林  
 集刊』1995 西安碑林博物館)  
 Zhou Xiuqin “Emperor Taizong and His  
 Six Horses” (2001.2 “ORIENTATIONS”  
 Orientations Magazine Ltd., Hong Kong)  
 周秀琴「昭陵六駿流失始末」(『碑林集刊』2002 西  
 安碑林博物館)  
 倪方六『民国盜墓史·内幕卷』(2012 中国華僑出  
 版社)  
[http://blog.renren.com/  
 share/225578896/3239887867](http://blog.renren.com/share/225578896/3239887867) 民国三大盜墓軍  
 閩之陝西土著軍閥党玉琨覆滅、及西安守城戰的  
 由来  
[http://baike.baidu.com/view/3943240.  
 htm?fr=aladdin](http://baike.baidu.com/view/3943240.htm?fr=aladdin) 党玉琨\_百度百科  
 劉禹世『世載堂雜憶』「清東陵被劫記」(1960 中華  
 書局)  
 『順天時報』1928 (民国17年) 8月7日  
 『順天時報』1928 (民国17年) 8月16日  
 『中央日報』1928 (民国17年) 8月12日  
 『中央日報』1928 (民国17年) 8月16日  
 愛新覺羅溥儀著、小野忍ら訳『わが半生』(1992  
 筑摩書房)  
 李成武『愛月軒筆記』  
 疇隱居士『佛學大辭典』  
 倪方六『民国盜墓史·秘術卷』(2012 中国華僑出  
 版社)  
 徐鑫『地下仙堂：清東陵乾隆陵地宮清理之謎』  
 (2010 山東大学出版社)  
 中国人民政治協商會議全國委員會文史資料研究會  
 編『文史資料選輯』(1979年7月總64輯「孫殿英  
 投敵經過」「五、孫殿英暢談一生得意事」中華書  
 局)  
 (英) 布蘭德 (Brand) 等著、張偉紅訳『慈禧外  
 伝』(2007 河南文芸出版社)  
 德齡『瀛台泣血記』(2004 文化芸術出版社)  
 徐鑫『揭秘光緒陵：崇陵地下宮殿清理之謎』(2010  
 中国書店)  
 『德宗景皇帝大事擋』  
 『清宮擋案』「孝定景皇后殮入送衣版山陵供奉遺  
 做玉品衣服等帳3694号」  
 晏子有『清東西陵』(2000 中国青年出版社)  
 昭槿『嘯亭雜錄』(1980 中華書局)  
 中国人民政治協商會議河北省文史資料研究會編  
 陳宝蓉『夜盜珍妃墓』(1986 河北人民出版社)  
 鄧峙一『李品仙在安徽盜掘楚王墓親歷記』(『安徽  
 文史資料選輯』1979 第一輯 安徽人民出版社)  
 胡漢生『明十三陵』(1998 中国青年出版社)  
 中国人民政治協商會議河北省文史資料研究會編  
 于善浦『九龍杯之謎』(1986 河北人民出版社)  
 竇忠如『霧開清西陵』(2000 解放出版社)  
 中国人民政治協商會議全國委員會文史資料研究委  
 員會編『文史資料選輯』第5冊 第18輯 邱維達  
 「蒋介石秘密炸汪墳」(1986 中国文史出版社)  
[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_4851fade0100e  
 9df.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_4851fade0100e9df.html)

倪方六「蒋介石蒋汪精衛炸墓焚屍真相」  
劉傑『漢奸裁判－対日協力者を襲った運命』（2000  
中公新書）

### 第7章

丁業「直擊盜墓狂潮」（『新西部』2003年08期 陝西  
省科学院）

<http://blog.sina.com.cn/s/>

[blog\\_5052da350100dmwf.html?tj=1](http://blog_5052da350100dmwf.html?tj=1)

裴鈺「揭密80年代席卷全国的盜墓狂潮」新波博客  
<http://news.sina.com.cn/s/2002-10-18/1447772784.html>

「利益驅使瘋狂盜墓」2002年10月18日 江南都市報  
張雲、丁毅「『侯百万』『郭千万』覆滅紀實」（『記  
者觀察』1995年08期）

丁毅、張雲「捍衛文明之戰－『侯百万』『郭千  
万』兩個帶黑社会性質特大文物犯罪集團覆滅記」  
（『政府法制』1995年07期）

山本展男『裏中国史 墓どろぼうは金持ちへの道』  
（2007 講談社）

蔚積明「推毀惡勢力－山西警方偵審『侯百万』『郭  
千万』兩大文物犯罪集團紀實」（『人民公安』  
1995年16期）

<http://www.148com.com/html/589/105132.html>

侯林等19人盜掘古文化遺跡、古墓葬案－中律網

<http://dangshi.people.com.cn/GB/146570/198300/200215/200224/12529698.html>

1995年－中国  
反腐倡廉大事記（第四部）－中国共产党新聞－  
人民網

龐聯昌「九十年代的盜墓（上）」（『美文』2009年04  
期 美文雜誌社）

昭陵博物館編『昭陵唐墓壁畫』（2006 文物出版社）

陝西省考古研究院、昭陵博物館編著『唐昭陵李貴  
妃墓發掘報告』（2017 科学出版社）

龐聯昌「九十年代的盜墓（下）」（『美文』2009年05  
期 美文雜誌社）

徐衛民『秦公帝王陵』（2002 中国青年出版社）

[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_545c8d450100g0te.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_545c8d450100g0te.html)

揭密震惊世界的考古悲劇：大堡山古墓浩劫（全文）  
巴西 新浪博客

国家文物局編『秦韻：大堡山出土文物精粹』  
（2015 文物出版社）

殷建強「文物大省卷起盜墓狂潮」（『檢察風雲』  
2004年09期）

華博『中国盜墓的細節』（2013 中国書店）

孫建華『盜墓史跡』（2009 中国工人出版社）

大海、邢山「槍声為盜墓賊送終」（『党風与廉政』  
1998年03期）

蘇殿遠『国患公告－中国古文物大案偵破紀實』  
（2000 中国社会出版社）

[http://www.law-lib.com/lawyer/lawyer.](http://www.law-lib.com/lawyer/lawyer.asp?id=4219&action=case)

[asp?id=4219&action=case](http://www.law-lib.com/lawyer/lawyer.asp?id=4219&action=case)

北京市阿高律師事務所－律師黃頁 lawyer law  
firms

<http://news.ifeng.com/>

[mainland/201001/0109\\_17\\_1504274.shtml](http://mainland/201001/0109_17_1504274.shtml)

河北邯鄲趙王陵1ヶ月遭3伙盜墓盜竊（図）

[http://heb.hebei.com.cn/xwzx/hbpd/hd/201001/t20100109\\_1002472.shtml](http://heb.hebei.com.cn/xwzx/hbpd/hd/201001/t20100109_1002472.shtml)

趙王陵4号墓再遭「鬼吹灯」深夜擒獲6個盜墓賊  
－邯鄲－長城網－河北門戶

<http://www.chinanews.com/cul/2012/05-15/3890501.shtml>

河北邯鄲趙王陵1号墓被盜案告破9名主犯落網－  
中新網

<http://www.chinanews.com/cul/2012/12-11/4397593.shtml>

邯鄲趙王陵2号陵2座封土或為王陵 墓主身份待  
定－中新網

－中新網

孫殿遠『国宝奇案紀實』（2006 金城出版社）

龐聯昌「世紀初的盜墓（上）」（『美文』2009年06期  
美文雜誌社）

來村多加史『唐代皇帝陵の研究』（2001年 学生社）

「群賊盜恭陵：驚動國務院的61件国宝盜墓大案」

（『東方收藏』2010年04期）

東湖落雁「文物大盜落網記－湖北隨州特大盜掘古  
墓、倒壳文物案偵破紀實」（『啄木鳥』2013年03  
期）

龐聯昌「世紀初的盜墓（中）」（『美文』2009年07期  
美文雜誌社）

<http://news.sina.com.cn/s/2003-06-26/2251274410s.shtml>

西漢竇皇后墓陶俑回故  
里將陳漢景帝陽陵博物館 新華網西安2003年6  
月26日電 記者：馮國

[http://www.chinacourt.org/article/](http://www.chinacourt.org/article/detail/2002/05/id/4974.shtml)

[detail/2002/05/id/4974.shtml](http://www.chinacourt.org/article/detail/2002/05/id/4974.shtml)

天津市薊縣盜墓大案昨開審－中国法院網

[http://hsb.hsw.cn/2009-10/21/content\\_7501751.](http://hsb.hsw.cn/2009-10/21/content_7501751.htm)

htm

專案組突然被拆散 公安部督辦文物大案擱淺年  
（図）\_華商網

[http://www.face21cn.com/gudai/](http://www.face21cn.com/gudai/new/2011_08_14_1649.html)

[new/2011\\_08\\_14\\_1649.html](http://www.face21cn.com/gudai/new/2011_08_14_1649.html)

洛陽盜墓背後利益 盜墓者移師省外十墓九空

唐陌楚「大墓的愛与哀愁－訪陝西省文物局文物鑑  
定組負責人呼林貴陝西」（『收藏界』2010年08期）

陝西歷史博物館編『皇后的天堂：唐敬陵貞順皇后  
石椁研究』（2015 文物出版社）

<http://hn.rednet.cn/c/2009/08/07/1804506.htm>

建国以來湖南最大盜墓系列案44人被公訴－湖南頻  
道－紅網 2009-08-07

<http://news.sina.com.cn/c/2010-05-15/092920277825.shtml>

湖南省最大盜墓案一審宣判4名主犯被判死刑（図）  
－新聞中心－新浪網 2010-05-15日

<http://www.zjww.gov.cn/news/2011-03-05/289416540.shtml>

《中華人民共和國刑法修正案（八）》通過調整文物  
犯罪量刑標準『中国文物報』孫波 2011-03-05

[http://news.enorth.com.cn/](http://news.enorth.com.cn/system/2011/09/14/007327505.shtml)

[system/2011/09/14/007327505.shtml](http://news.enorth.com.cn/system/2011/09/14/007327505.shtml)

刑法修正案八取消盜掘古墓罪死刑 『北京晚報』  
2011-09-14

東湖落雁「文物大盜落網記－湖北隨州特大盜掘古  
墓、倒壳文物案偵破紀實」（『啄木鳥』2013年03  
期）

<http://news.sina.com.cn/c/sd/2015-05-27/013931879435.shtml>

揭秘建国來最大盜墓案：团伙頭目曾賭錢輸掉上億  
盜墓－新浪新聞

<http://finance.sina.com.cn/sf/news/2016-04-14/110227185.html>

新中國成立以來最大盜墓案一審宣判：頭號主犯重

刑 - 新浪法院頻道 - 新浪網  
 殷建強「文物大省卷起盜墓狂潮」(『檢察風雲』  
 2004年09期)  
 国家文物局、公安部編著『衆志成城 雷霆出擊：  
 2010年全国重点地区打擊文物犯罪成果精粹』  
 (2011 文物出版社)  
[http://hn.chinaso.com/  
 detail/20160105/100020003](http://hn.chinaso.com/detail/20160105/100020003)  
 2881441451974405073649388\_1.html  
 模金校尉：2015年盜墓案174起河南39起占比超兩成  
 - 中国搜索河南  
 坂東忠信『新・通訳捜査官』(2012 経済界新書)  
[http://www.sankei.com/affairs/news/141102/  
 afr1411020017-n2.html](http://www.sankei.com/affairs/news/141102/afr1411020017-n2.html)  
 「数千円荒稼ぎ、中国サングラス密漁船団 罰金軽く  
 抑止効果なし」(2014.11.2 産経ニュース)

## 【図版】

### 第1章

図1：殷墟平面図 王巍『中国考古学大辞典』  
 (2014 上海辞書出版社)  
 写真1：殷墟宗廟宮殿区 2013.3.13 筆者撮影  
 写真2：殷墟王陵區  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%D2%F3%D0%E6&fr=ala1>  
 写真3：司母戊方鼎 (中国国家博物館蔵)  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%AE%E9%9D%92%E9%8A%85%E5%99%A8#mediaviewer/File:HouMuWuDingFullView.jpg>  
 写真4：婦好墓享堂 (復原) 2013.3.13 筆者撮影  
 写真5：婦好墓墓室 (復原) 2013.3.13 筆者撮影  
 写真6：婦好鸞尊 (中国国家博物館蔵)  
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%AE%E9%9D%92%E9%8A%85%E5%99%A8#mediaviewer/File:Fuhao\\_bat.JPG](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%AE%E9%9D%92%E9%8A%85%E5%99%A8#mediaviewer/File:Fuhao_bat.JPG)  
 写真7：婦好墓出土の玉人1 (中国社会科学院考古研究所蔵)  
 写真8：同玉人2 (中国社会科学院考古研究所蔵)  
 図2：伍子胥  
<http://baike.baidu.com/subview/16593/7433565.htm>  
 写真9：楚紀南故城 2013.1.28 筆者撮影  
 図3：秦始皇帝嬴政  
<http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E5%A7%8B%E7%9A%87%E5%B8%9D>  
 写真10：秦始皇帝驪山陵  
<http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E5%A7%8B%E7%9A%87%E5%B8%9D%E9%99%B5#mode%3Ddetail%26index%3D27%26st%3D846>  
 図4：始皇帝陵園の平面図 鶴間和幸『中国の歴史第03巻ファーストエンペラーの遺産 秦漢帝国』(2004 講談社)  
 写真11：始皇帝陵兵馬俑坑 張振光『中国古代建築 帝王陵寢』(2011 中国建築工業出版社)

写真12：趙武靈王陵墓 2012.8.11 筆者撮影  
 図5：中山王陵兆域図銅版模本と俯瞰復原図 王巍『中国考古学大辞典』(2014 上海辞書出版社)  
 図6：享堂(台榭建築)と柳室(阪南大学来村多加史教授作画)  
 図7：秦始皇帝陵墳丘内部建築イメージ図(阪南大学来村多加史教授作画)  
 図8：秦公1号大墓の平面・断面図 黄石林、朱乃誠著、高木智見訳『中国考古の重要発見』(2003 日本エディタースクール出版)  
 写真13：秦公1号大墓 2005.8.12 筆者撮影  
 図9：項羽(『晚笑堂竹莊画伝』)  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A0%85%E7%B1%8D>  
 図10：徐州漢代墓群 周学鷹『徐州漢墓建築 - 中国漢代(楚城)国墓葬建築考』(2001 中国建築工業出版社)  
 図11：北洞山漢墓平面・透視図 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』(2010 中国社会科学出版社)  
 写真14：北洞山楚王墓 2013.3.17 筆者撮影  
 写真15：北洞山楚王墓墓室 2013.3.17 筆者撮影  
 図12：獅子山楚王陵平面・透視図 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』(2010 中国社会科学出版社)  
 写真16：獅子山楚王陵 2006.8.14 筆者撮影  
 図13：龜山M2墓透視図 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』(2010 中国社会科学出版社)  
 写真17：龜山M2王墓後室(再現) 2006.8.15 筆者撮影  
 写真18：龜山M2王后墓前室(再現) 2006.8.15 筆者撮影  
 写真19：龜山M2王后墓後室(再現) 2006.8.15 筆者撮影  
 写真20：滿城漢墓M1号墓 2010.8.10 筆者撮影  
 図14：滿城漢墓M1号墓平面・透視図 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』(2010 中国社会科学出版社)  
 写真21：滿城漢墓M1墓前室(再現) 2010.8.10 筆者撮影  
 図15：滿城M1号墓の玉衣構造図 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』(2010 中国社会科学出版社)  
 写真22：劉勝金縷玉衣(河北省博物館蔵)  
<http://www.hebeimuseum.org/>  
 写真23：滿城漢墓(寶綰)M2墓 2010.8.10 筆者撮影  
 写真24：長信宮灯(河北省博物館蔵)  
<http://www.hebeimuseum.org/>  
 写真25：九龍山漢墓群 2011.9.09 筆者撮影  
 図16：南越王墓平面・透視図 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』(2010 中国社会科学出版社)  
 写真26：南越王墓 2009.2.25 筆者撮影  
 図17：南越王墓出土壓印玉璽 王巍『中国考古学大辞典』(2014 上海辞書出版社)  
 写真27：伝・周幽王陵(臨潼區宋家村)  
[http://epaper.xiancn.com/xarb/html/2012-03/20/content\\_98050.htm](http://epaper.xiancn.com/xarb/html/2012-03/20/content_98050.htm)  
 図18：王莽  
[http://baike.baidu.com/  
 subview/20658/15428523.htm](http://baike.baidu.com/subview/20658/15428523.htm)

图19：前漢帝陵分布図 王巍『中国考古学大辞典』（2014 上海辞書出版社）

图20：前漢武帝劉徹

写真28：前漢武帝茂陵 2011.8.06 筆者撮影

写真29：鑿金馬（茂陵博物館蔵）

<http://www.baike.baidu.com/wiki/%E8%8C%82%E9%99%B5%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A6%86>

写真30：鑿金銀高擎竹節薰炉（茂陵博物館蔵）

[http://baike.baidu.com/link?url=O2Y8T8KfT4085-NfHWfSyF8dSYNTsAQBYpI4Yd9oKjU5OeD4cXkUSuF07OJWs3m2HjM7MqtfGPMkj3fptFYGt-sf\\_p9dOnRR24XYP6ZBZ5K\\_is-h3wC6jKOJQYGwSF\\_JO8JK1dYaAMVfKij5TTRq1sXFxIvgCpgdU2-orl1TGHXo3BeKAWxbOpGQSAxzyMr](http://baike.baidu.com/link?url=O2Y8T8KfT4085-NfHWfSyF8dSYNTsAQBYpI4Yd9oKjU5OeD4cXkUSuF07OJWs3m2HjM7MqtfGPMkj3fptFYGt-sf_p9dOnRR24XYP6ZBZ5K_is-h3wC6jKOJQYGwSF_JO8JK1dYaAMVfKij5TTRq1sXFxIvgCpgdU2-orl1TGHXo3BeKAWxbOpGQSAxzyMr)

写真31：霍去病墓・匈奴を踏む馬（茂陵博物館蔵）2007.8.12 筆者撮影

<http://www.baike.baidu.com/wiki/%E8%8C%82%E9%99%B5%E5%8D%9A%E7%89%A9%E9%A6%86>

图21：大葆台漢墓平面・透視立体図 王巍『中国考古学大辞典』（2014 上海辞書出版社）

写真32：広陵王劉胥天山漢墓黃腸題湊模型（南京博物院蔵）2012.8.12 筆者撮影

图22：董卓

[http://baike.baidu.com/link?url=q6H36lLjan-TE3hUI7JSETu\\_BwaCJPglus0EF4H0MWuPHYDYiUFzoWtJegQP4XYrY03uJlLt8Na2LAsXLCTfCQMKnOP0YYjqDC52iJ\\_B7](http://baike.baidu.com/link?url=q6H36lLjan-TE3hUI7JSETu_BwaCJPglus0EF4H0MWuPHYDYiUFzoWtJegQP4XYrY03uJlLt8Na2LAsXLCTfCQMKnOP0YYjqDC52iJ_B7)

图23：後漢帝陵分布図 閻崇東『兩漢帝陵』（2007 中国青年出版社）

图24：呂布

<http://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%90%95%E5%B8%83>

图25：曹操猛徳

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B2%DC%B2%D9&fr=ala1>

图26：芒碭山梁王陵分布図 河南省商丘市文物管理委員会等編纂『芒碭山西漢梁王墓地』（2001 文物出版社）

写真33：梁孝王劉武石像 2012.8.31 筆者撮影

写真34：李王后石像 2012.8.31 筆者撮影

写真35：保安山2号墓 2012.8.31 筆者撮影

写真36：トイレ 2012.8.31 筆者撮影

写真37：儲氷室 2012.8.31 筆者撮影

写真38：墓道塞石 2012.8.31 筆者

图27：柿園漢墓・墓室壁画 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』（2010 中国社会科学出版社）

写真39：泰山 2011.3.16 筆者撮影

图28：墨子

[http://baike.baidu.com/link?url=Fhv42T7\\_WHjfFvzBH8h6ntvRWjcODRxDCqe3q\\_BVvKoVh0aqLGN8jK5Tdl4IeFRSvLc4Hu00EQk\\_lrdV8fo6GGYcSmUw5I2F9v4mPthp1\\_](http://baike.baidu.com/link?url=Fhv42T7_WHjfFvzBH8h6ntvRWjcODRxDCqe3q_BVvKoVh0aqLGN8jK5Tdl4IeFRSvLc4Hu00EQk_lrdV8fo6GGYcSmUw5I2F9v4mPthp1_)

图29：呂不韋

<http://baike.baidu.com/link?url=caVuWJmcdjPtjdBK66ONrgctCvCM02sLLYJI03ECa6C9>

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%BA%BA%CE%C4%B5%DB&fr=ala1>

图30：前漢文帝劉恒

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B0%D4%C1%EA&fr=ala1>

写真40：前漢文帝劉恒霸陵

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B0%D4%C1%EA&fr=ala1>

图31：王充

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CD%F5%B3%E4&fr=ala1>

图32：魏文帝曹丕

[http://baike.baidu.com/link?url=aiqpDGWGu2UQh2IE7VIKUoBRrQjzVHxg\\_SERsNIRHJ0UkPsi4CC0dijR-xie7RYWCQ04Mjmx45IW2e0hXUeiw9e2FcdqJEEExg\\_gdeIKHCYm](http://baike.baidu.com/link?url=aiqpDGWGu2UQh2IE7VIKUoBRrQjzVHxg_SERsNIRHJ0UkPsi4CC0dijR-xie7RYWCQ04Mjmx45IW2e0hXUeiw9e2FcdqJEEExg_gdeIKHCYm)

写真41：東魏孝靜帝元善見「天子冢」2013.3.14 筆者撮影

写真42：西門豹祠 2013.3.13 筆者撮影

图33：西高穴曹操高陵位置見取り図 河南省文物考古研究所編著・渡邊義浩監訳『曹操墓の真相』（2011 国書刊行会）

写真43：西高穴1号墓と2号墓

河南省文物考古研究所編著『曹操墓真相』（2010 科学出版社）

图34：西高穴2号墓透視立体図

河南省文物考古研究所編著『曹操墓真相』（2010 科学出版社）

写真44：曹操高陵・墓道

[http://baike.baidu.com/link?url=gorQqVZgK0v6KBh-orjVntShRu70AJ1klJfqQmD8dZRcy3lAPzwhaHF7Am8kp9PXT42c10ZuYwN\\_D01R1uqIMq](http://baike.baidu.com/link?url=gorQqVZgK0v6KBh-orjVntShRu70AJ1klJfqQmD8dZRcy3lAPzwhaHF7Am8kp9PXT42c10ZuYwN_D01R1uqIMq)

写真45：曹操高陵・前室より後室を望む

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B2%DC%B2%D9%C4%B9&fr=ala1>

写真46：懿徳太子墓 2013.8.22 筆者撮影

图35：懿徳太子墓・平面・透視立体図

写真47：懿徳太子墓・過道から甬道を望む 2013.8.22 筆者撮影

## 第2章

写真1：汲冢書出土跡 2013.8.25 筆者撮影

写真2：銀雀山1号漢墓 2013.3.08 筆者撮影

写真3：長沙馬王堆漢墓3号墓 2013.2.02 筆者撮影

图1：白鹿原の前漢文帝劉恒霸陵と陪葬陵・坑 劉慶柱、李毓芳著、來村多加史訳『前漢皇帝陵の研究』（1991 学生社）

图2：齊桓公と管仲（漢代画像石）

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%C6%EB%BB%B8%B9%AB&fr=ala1>

图3：魯肅

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%C2%B3%CB%E0&fr=ala1>

图4：羊献容皇后（『明刻歷代百美图』）  
写真4：齐废帝箫宝卷墓·右石獸（麒麟）

2013.8.30 筆者撮影

图5：梁武帝箫衍

[http://baike.baidu.com/link?url=kjhqMEONKHO7tqGb6qCfi-vhqNwO2L-2Z\\_uUQAB\\_TFXMjN3GI1OkFUJcWuseRQG\\_x5hi3idj1eYFdnE5yY8UK](http://baike.baidu.com/link?url=kjhqMEONKHO7tqGb6qCfi-vhqNwO2L-2Z_uUQAB_TFXMjN3GI1OkFUJcWuseRQG_x5hi3idj1eYFdnE5yY8UK)

写真5：梁武帝箫衍修陵·左石獸（麒麟）  
2013.8.30 筆者撮影

图6：陳叔陵

[http://baike.baidu.com/link?url=KwTeRB4PqV10fblii-Z2VACBfmv-WOmGRRRnPiSqHRC6g8oe0oHBYhYKGG42fXNfksuFcg\\_bwpOC0pjd0kntnq](http://baike.baidu.com/link?url=KwTeRB4PqV10fblii-Z2VACBfmv-WOmGRRRnPiSqHRC6g8oe0oHBYhYKGG42fXNfksuFcg_bwpOC0pjd0kntnq)

图7：謝安

<http://baike.baidu.com/link?url=bTBxirR5OvEOXwA8aKltwOyzDw-lugwQaSOUF0OTbMGcz3vXbljr8u67n-22PYN74jB-PgV54SM443wLWXrQVq>

图8：陳武帝陳霸先

[http://baike.baidu.com/link?url=fAWC-T4Bcx5byVquPZNIankS-xxSanJfX8BtarkuideAlvDxYbOoAt8djh2hANSmzOYiq29sfbmC-3qrD5\\_](http://baike.baidu.com/link?url=fAWC-T4Bcx5byVquPZNIankS-xxSanJfX8BtarkuideAlvDxYbOoAt8djh2hANSmzOYiq29sfbmC-3qrD5_)

写真6：陳武帝陳霸先万安陵·左右石獸（麒麟）  
2013.8.28 筆者撮影

### 第3章

图1：隋文帝楊堅

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%D1%E5%BC%E1&fr=ala1>

写真1：隋文帝楊堅泰陵

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CB%55%CE%4%B5%DB%CC%A9%CE1%EA&fr=ala1>

写真2：揚州隋煬帝墓

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%D1%EF%D6%DD%CB%E5%EC%BE%B5%DB%4%B9&fr=ala1>

写真3：躑躅金玉带

<http://www.wenwuchina.com/news/view/cat/196/id/208446>

写真4：雷塘隋煬帝墓

<http://image.baidu.com/i?ct=201326592&cl=2&lm=-1&nc=1&ie=utf-8&tn=baiduimage&ipn=r&pv=&fm=rs6&word=%E9%9A%8%B%E7%82%80%E5%B8%9D%E9%99%B5>

图2：隋煬帝楊広

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CB%E5%EC%BE%B5%DB&fr=ala1>

图3：唐高祖李淵

[http://baike.baidu.com/link?url=VizWQXguZE5HHtbTU9Uy1nbaRFCmOOQzkOz\\_hxBGM0zLUTKj5q-nAjPYBD\\_WutxxbSQNUYEVchs4GvuURA9XbIDGlp](http://baike.baidu.com/link?url=VizWQXguZE5HHtbTU9Uy1nbaRFCmOOQzkOz_hxBGM0zLUTKj5q-nAjPYBD_WutxxbSQNUYEVchs4GvuURA9XbIDGlp)

9 MGZ 9 Cr-NBgbkOEGEOdwucsSO-4I2 HioJHaeXop6M5duUqFNDH0nB0CKfbx3PNQJE\_8FA51IOMVpxxtuRkQzJY88yI-fTar3v96GW

写真5：唐高祖李淵献陵 2004.8.09 筆者撮影

写真6：唐高祖李淵献陵·石虎 2004.8.09 筆者撮影

写真7：唐高祖李淵献陵·華表 2004.8.09 筆者撮影

写真8：唐太祖李淵献陵·石犀（西安碑林博物館藏）2004.8.06 筆者撮影

写真9：李勣墓 2013.8.22 筆者撮影

图4：唐玄宗李隆基

[http://baike.baidu.com/link?url=ZCNbY4eX570KPP2FJqVnWlue1kdH1ZaoEun0scg\\_2qtqM53mpmSisqSgMLCgStiEEoD22sAgj6oX1Nr16SCNLxSE8DwbMgOotfQpnQ0AzW48qrG9Nu\\_Jcbp\\_DYzPOQ0EMhzX7vKxBeVrSLartZYVC3DUelveJ0sbQ-0jxblQ6dCB4HJswr62dj1DfHCzbQnQ](http://baike.baidu.com/link?url=ZCNbY4eX570KPP2FJqVnWlue1kdH1ZaoEun0scg_2qtqM53mpmSisqSgMLCgStiEEoD22sAgj6oX1Nr16SCNLxSE8DwbMgOotfQpnQ0AzW48qrG9Nu_Jcbp_DYzPOQ0EMhzX7vKxBeVrSLartZYVC3DUelveJ0sbQ-0jxblQ6dCB4HJswr62dj1DfHCzbQnQ)

图5：黄巢

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%BB%C6%B3%B2&fr=ala1>

写真10：前漢錯金銀銅犀尊（中国国家博物館藏）

[http://www.baotounews.com.cn/epaper/btrb/html/2012-10/25/content\\_217756.htm](http://www.baotounews.com.cn/epaper/btrb/html/2012-10/25/content_217756.htm)

写真11：唐高宗李治乾陵全景

[http://baike.baidu.com/link?url=87Gik-ESUzk3MxqeteWND0oCZedCvcsViV2WWRYeemYe57\\_gocElj8RWknTmobn4ErliAUNY4Ez8fjegizufHq](http://baike.baidu.com/link?url=87Gik-ESUzk3MxqeteWND0oCZedCvcsViV2WWRYeemYe57_gocElj8RWknTmobn4ErliAUNY4Ez8fjegizufHq)

图6：温韜

[http://baike.baidu.com/link?url=ROCPJfTqOFzq-rhWo514ngNqwRZlvbcKr6OWyyLhy\\_ZbiuOUf336ilmmHFFAPfH\\_z1jEzEGWRXj3PK1R9kx0oq](http://baike.baidu.com/link?url=ROCPJfTqOFzq-rhWo514ngNqwRZlvbcKr6OWyyLhy_ZbiuOUf336ilmmHFFAPfH_z1jEzEGWRXj3PK1R9kx0oq)

写真12：唐懿宗李漼簡陵 2011.8.10 筆者撮影

写真13：前漢高祖劉邦長陵 2011.8.07 筆者撮影

写真14：前漢景帝劉啓陽陵 2007.8.13 筆者撮影

写真15：西魏文帝元宝炬永陵 2012.9.05 筆者撮影

写真16：唐肅宗李亨建陵·翼馬石刻 2004.8.09

筆者撮影

写真17：唐武宗李炎端陵·翼馬石刻 2011.8.09

筆者撮影

图7：唐太宗李世民

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CC%6%CC%AB%D7%DA%0%EE%CA%0%3%F1&fr=ala1>

写真18：唐太宗李世民九峻山昭陵 2004.8.07 筆者撮影

写真19：唐太宗李世民昭陵六俊（復原）2013.8.22

筆者撮影

写真20：唐太宗李世民昭陵·東（左）走獅子石刻

（西安碑林博物館藏）2004.8.06 筆者撮影

写真21：唐太宗李世民昭陵·西（右）走獅子石刻

（西安碑林博物館藏）2004.8.06 筆者撮影

图8：唐高宗李治

<http://news.ifeng.com/history/zhongguogudaishi/>



- detail\_2014\_03/27/35203897\_0.shtml  
 図9：則天武后  
[http://baike.baidu.com/link?url=XJRVP3YhpFKovlRqZbCdXZrLbiCnpNyl7i\\_E2tglPK-bQzKcWp\\_8cBpsEjd4n9sWACMuQ41OE36tgK8MSX\\_aG1kGduFHFhn4g26-mAwcf6y](http://baike.baidu.com/link?url=XJRVP3YhpFKovlRqZbCdXZrLbiCnpNyl7i_E2tglPK-bQzKcWp_8cBpsEjd4n9sWACMuQ41OE36tgK8MSX_aG1kGduFHFhn4g26-mAwcf6y)  
 図10：唐閩中十八陵中の乾陵の位置 樊英峰『乾陵文化研究』（2005 三秦出版社）  
 図11：乾陵の陵園設計 来村多加史『唐代皇帝陵の研究』（2001 学生社）  
 写真22：唐高宗李治乾陵・南神門西獅子  
 写真23：唐高宗李治乾陵・南神門東獅子  
 写真24：大夏赫連勃勃石馬（西安碑林博物館蔵）2005.8.10 筆者撮影  
 写真25：西魏文帝元宝炬永陵・石獸 2012.9.05 筆者撮影  
 写真26：唐孝敬皇帝李弘恭陵・石獸 2012.9.02 筆者撮影  
 写真27：唐楊氏順陵・石獸 2011.8.07 筆者撮影  
 写真28：唐睿宗李旦橋陵・石獸 2012.9.04 筆者撮影  
 写真29：唐高宗李治乾陵・翼馬 2012.2.11 筆者撮影  
 写真30：唐高宗李治乾陵・駝鳥 2007.8.12 筆者撮影  
 写真31：唐高宗李治乾陵・石馬と控馬官 2007.8.12 筆者撮影  
 写真32：唐高宗李治乾陵・翁仲（武官）2007.8.12 筆者撮影  
 写真33：北魏宣武帝元恪景陵・翁仲（武官）2004.8.12 筆者撮影  
 写真34：唐玄宗李隆基泰陵・翁仲（文官）2004.8.08 筆者撮影  
 写真35：唐太宗李治乾陵・無字碑 2012.2.11 筆者撮影  
 写真36：唐高宗李治乾陵・述聖紀碑 2012.2.11 筆者撮影  
 写真37：唐高宗李治乾陵・61酋君長像 2012.2.11 筆者撮影  
 図12：唐章懷太子李賢墓平面・断面図 王巍『中国考古学大辞典』（2014 上海辞書出版社）  
 写真38：唐章懷太子李賢墓 2013.8.22 筆者撮影  
 写真39：唐章懷太子李賢墓・墓道 2013.8.22 筆者撮影  
 写真40：唐章懷太子李顯墓・甬道盜掘坑 2013.8.22 筆者撮影  
 図13：唐章懷太子李賢墓壁画「馬球図」（部分）（陝西歴史博物館蔵）  
[http://life.cnwest.com/content/2006-09/12/content\\_301573.htm](http://life.cnwest.com/content/2006-09/12/content_301573.htm)  
 図14：唐章懷太子李賢墓壁画「観鳥捕蝉図」（部分）（陝西歴史博物館蔵）  
[http://www.nlc.gov.cn/newgtkj/shjs/201109/t20110923\\_52090.htm](http://www.nlc.gov.cn/newgtkj/shjs/201109/t20110923_52090.htm)  
 写真41：唐永泰公主李仙蕙墓 2012.2.11 筆者撮影  
 図15：唐永泰公主李仙蕙墓・平面断面図 王巍『中国考古学大辞典』（2014 上海辞書出版社）  
 写真42：唐永泰公主李仙蕙墓・墓道天井（下から望む）2013.8.22 筆者撮影  
 写真43：唐永泰公主李仙蕙墓・甬道盜掘坑 2012.8.22 筆者撮影  
 写真44：唐永泰公主李仙蕙墓（甬道から前室を望む）2012.8.22 筆者撮影  
 図16：唐永泰公主李仙蕙墓前室壁画「宮女図」（部分）（陝西歴史博物館蔵）  
<http://www.bjci.com.cn/nation/fushi/133/12350.html>  
 写真45：唐永泰公主李仙蕙墓・墓誌  
[http://www.360doc.com/content/12/0809/12/8413713\\_229192988.shtml](http://www.360doc.com/content/12/0809/12/8413713_229192988.shtml)  
 写真46：前蜀王建永陵 2012.2.20 筆者撮影  
 図17：前蜀王建永陵の透視・断面・平面図 羅哲文著、杉山市平訳『中国歴代の皇帝陵』（1989 徳間書店）  
 写真47：前蜀王建永陵・棺床十二力士像  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CD%F5%BD%A8%C4%B9&fr=ala1>  
 写真48：前蜀王建永陵・棺床二十四伎楽楽人  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CD%F5%BD%A8%C4%B9&fr=ala1>  
 写真49：前蜀王建墓・王建石像 2012.2.20 筆者撮影  
 図18：烈祖李昇欽陵の透視・断面・平面図 羅哲文著、杉山市平訳『中国歴代の皇帝陵』（1989 徳間書店）  
 写真50：南唐二陵・烈祖李昇欽陵 2013.8.29 筆者撮影  
 写真51：南唐二陵・烈祖李昇欽陵（中室から後室を望む）2013.8.29 筆者撮影

#### 第4章

- 図1：北宋太祖趙匡胤  
<http://image.search.yahoo.co.jp/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E8%B6%99%E5%8C%A1%E8%83%A4>  
 図2：北宋徽宗趙佶  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%BE%BD%E5%AE%97>  
 図3：比干（左）、殷紂王と妲姫（右）  
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B8%9D%E8%BE%9B>  
 写真1：比干彫像 2013.8.25 筆者撮影  
 写真2：比干墓 2013.8.25 筆者撮影  
 写真3：比干墓・孔子「天下第一碑」  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B1%C8%B8%C9%C4%B9&fr=ala1>  
 図4：南宋高宗趙構  
[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E5%AE%97\\_\(%E5%AE%8B\)](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%AB%98%E5%AE%97_(%E5%AE%8B))  
 図5：鞏鼎宋陵分布図 王巍『中国考古学大辞典』（2014 上海辞書出版社）  
 写真4：完顔宗翰銅像  
[http://baike.baidu.com/link?url=Y-WEpwG0FG7vSDIBsT3y7m88kX506YDoriWaHatOZgDt60ltKnpDi8wz5cDX\\_1RgaUIWSD99fYJVy0cWPFcJ4a](http://baike.baidu.com/link?url=Y-WEpwG0FG7vSDIBsT3y7m88kX506YDoriWaHatOZgDt60ltKnpDi8wz5cDX_1RgaUIWSD99fYJVy0cWPFcJ4a)  
 図6：劉豫  
<http://www.dmzh.net/Item/Show.asp?m=1&d=489>  
 図7：岳飛

[http://baike.baidu.com/link?url=xZhEwD\\_lryQvrzeqdm2LzUWWx8oMa2lmEhRe3eYotJpl2fL934Opjo4e5j4ZsPqFe1cFAkMDqwxUlobSJ-iUQ1eHWKbuoySL2akm\\_uWDJe](http://baike.baidu.com/link?url=xZhEwD_lryQvrzeqdm2LzUWWx8oMa2lmEhRe3eYotJpl2fL934Opjo4e5j4ZsPqFe1cFAkMDqwxUlobSJ-iUQ1eHWKbuoySL2akm_uWDJe)

图8：宋哲宗趙煦

[http://baike.baidu.com/link?url=JToMMxpsfkC9U-EBZCFTP7p39yPZogvXl4smGmX32kSM8qI7-hdws51P0V9DZVlmEC3c8z0I5JItGLxBzzS6oLmbUDmoJO0-66Q5pK7czhgZY5xox8Lhs2PBCf\\_TXGqRdELoJz9R2\\_hcpjgpnO1\\_](http://baike.baidu.com/link?url=JToMMxpsfkC9U-EBZCFTP7p39yPZogvXl4smGmX32kSM8qI7-hdws51P0V9DZVlmEC3c8z0I5JItGLxBzzS6oLmbUDmoJO0-66Q5pK7czhgZY5xox8Lhs2PBCf_TXGqRdELoJz9R2_hcpjgpnO1_)

写真5：宋哲宗趙煦永泰陵

<http://www.jlib.cn/ffy/slsd/ytl.htm>

写真6：宋太祖趙匡胤永昌陵 2008.8.16 筆者撮影

写真7：宋太祖趙匡胤永昌陵・象と象使い 2008.8.16 筆者撮影

写真8：宋太祖趙匡胤永昌陵・瑞禽 2008.8.16 筆者撮影

写真9：宋太祖趙匡胤永昌陵・角瑞 2008.8.16 筆者撮影

写真10：宋太祖趙匡胤永昌陵・馬と控馬官 2008.8.16 筆者撮影

写真11：宋太祖趙匡胤永昌陵・羊 2008.8.16 筆者撮影

写真12：宋太祖趙匡胤永昌陵・客使

<http://www.panoramio.com/photo/73715789>

写真13：宋太宗趙光義永熙陵・獅子 2008.8.16 筆者撮影

写真14：宋真宗趙恒永定陵 2004.8.13 筆者撮影

写真15：富弼墓

<http://blog.ifeng.com/article/3930887.html>  
图9：元德李皇后陵・墓門正面図 河南省文物考古研究所編『北宋皇陵』（1997 中州古籍出版社）  
来村多加史2013年作成資料

写真16：頂門石 2014.8.08 筆者撮影

图10：「自来石」封門メカニズム 龐中威『定陵発掘親歴記』（2002 学苑出版社）

写真17：北齊東安王婁睿墓・墓門

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%C2%A6%E5%A3&fr=ala1>

图11：クビライ・ハン

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AF%E3%83%93%E3%83%A9%E3%82%A4>

写真18：紹興南宋六陵遺跡

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CB%CE%1%F9%C1%EA&fr=ala1>

图12：南宋高宗永思陵・石蔵図 劉毅『中国古代物質文化史 陵墓』（2014 開明出版社）

图13：憲聖慈烈吳皇后

[http://baike.baidu.com/link?url=yvpAIB6jYLfZWrymBcCW9UD0Ll-9re5Gh3KuPbF99527czJFe5t6cvwEijgHk5ejxcfmq4HpMEQCyU4MrRZ6n\\_](http://baike.baidu.com/link?url=yvpAIB6jYLfZWrymBcCW9UD0Ll-9re5Gh3KuPbF99527czJFe5t6cvwEijgHk5ejxcfmq4HpMEQCyU4MrRZ6n_)

图14：文天祥

<http://baike.sogou.com/h88768.htm?sp=Snext&sp=l60076148>

## 第5章

图1：明太祖洪武帝朱元璋

[http://baike.baidu.com/link?url=vi9dfKBDJoFWe4Iib3M16mKAAR1A6S2hkLnO5fiR8M-80sCRGUBidvqJ9eBFowM0m9EvaBDhRzLvTAKRtKCC763GPBmwc5BTUcxGzX9c\\_q](http://baike.baidu.com/link?url=vi9dfKBDJoFWe4Iib3M16mKAAR1A6S2hkLnO5fiR8M-80sCRGUBidvqJ9eBFowM0m9EvaBDhRzLvTAKRtKCC763GPBmwc5BTUcxGzX9c_q)

图2：明太宗永樂帝朱棣

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B8%E6%A5%BD%E5%B8%9D>

图3：明神宗（万曆帝）朱翊欽

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%87%E6%9A%A6%E5%B8%9D>

图4：陳奉 <http://www.baike.com/wiki/%E9%99%88%E5%A5%89>

写真1：顯陵・前後2基宝城俯瞰図

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CF%D4%C1%EA&fr=ala1>

图5：明恭睿獻皇帝朱祐杭顯陵・陵园平面図 王巍『中国考古学大辞典』（2014 上海辞書出版社）

图6：明恭睿獻皇帝朱祐杭 <http://baike.baidu.com/link?url=WQeBS6tOEulZhi8mSRBikH5nWwFVGaed5LNiizPfs0hfXO4bBWHf51TMiHXyQEIapnIHQdfsGyd77-wIQdUq>

写真2：江蘇盱眙明祖陵 2011.1.05 筆者撮影

写真3：安徽鳳陽皇陵 2010.1.02 筆者撮影

写真4：南京明洪武帝朱元璋孝陵 2006.8.11 筆者撮影

图7：明世宗嘉靖帝朱厚熹

<http://www.baike.com/wiki/%E6%98%8E%E4%B8%96%E5%AE%97>

写真5：明恭睿獻皇帝朱祐杭顯陵・睿功聖德碑亭 2007.12.31 筆者撮影

写真6：顯陵・神道と櫺星門 2007.12.31 筆者撮影

写真7：顯陵・内明塘（手前）2007.12.31 筆者撮影

写真8：顯陵・石五供 筆者撮影

写真9：顯陵・方城と明樓 筆者撮影

写真10：顯陵・唾巴院 筆者撮影

图8：明十三陵平面図 劉毅『中国古代物質文化史・陵墓』（2014 民明出版社）

写真11：明十三陵・牌坊坊 2005.5.22 筆者撮影

写真12：明十三陵・碑樓 2005.5.22 筆者撮影

写真13：明十三陵・碑樓「大明長陵神功聖德碑」

2005.5.22 筆者撮影

图9：孝端皇后王氏

[http://www.mingtombs.com/jqyl/200905/t20090514\\_950.htm](http://www.mingtombs.com/jqyl/200905/t20090514_950.htm)

图10：孝靖皇后王氏

[http://tupian.baike.com/3g/a0\\_42\\_75\\_01200000031995134394753585787.jpg.html](http://tupian.baike.com/3g/a0_42_75_01200000031995134394753585787.jpg.html)

写真14：明神宗万曆帝定陵・方城と明樓

图11：明神宗朱翊欽（万曆帝）定陵・陵园平面図 王巍『中国考古学大辞典』（2014 上海辞書出版社）

<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%C3%F7%B6%A8%C1%EA&fr=ala1>

写真15：明定陵・隧道 2014.8.04 筆者撮影

- 写真16:「指路碑」発見地点(手前白敷石)  
2014.8.04 筆者撮影
- 写真17:「指路碑」(定陵博物館蔵) 2014.8.04 筆者撮影
- 図12:明定陵・地下宮殿平面図 来村多加史2013年作成資料
- 写真18:明定陵・金剛牆 2011.9.01 筆者撮影
- 写真19:明定陵・石門 2011.9.01 筆者撮影
- 写真20:明定陵・石門銅管体(上方)と門軸 2014.8.08 筆者撮影
- 写真21:明定陵中殿・万曆帝石神座と万年灯(手前) 2011.9.01 筆者撮影
- 写真22:明定陵後殿・宝床と棺槨 2011.9.01 筆者撮影
- 図13:万曆帝の遺骸 黄石林、朱乃誠著、高木智見訳『中国考古の重要発見』(2003 日本エディタースクール出版)
- 写真23:明定陵・孝端皇后「百子衣(複製)」(定陵博物館蔵)  
[http://www.visitbeijing.com.cn/play/sight/n214667076\\_1.shtml](http://www.visitbeijing.com.cn/play/sight/n214667076_1.shtml)
- 写真24:明定陵・万曆帝金翼善冠(定陵博物館蔵)  
<http://tieba.baidu.com/p/2930846475>
- 写真25:明定陵・孝靖皇后十二龍九鳳冠(定陵博物館蔵)  
<http://www.jiaxiangwang.com/arch/a-bchangping-dingling.htm>
- 写真26:定陵・左配殿棺床と金井(後方) 2014.8.08 筆者撮影
- 写真27:李自成銅像  
[http://baike.baidu.com/link?url=MojMctdg5isE4zVnKcwD3275T-XiDT9QE9n7IBsd7Xg7QiCul2nXKSbk8DehaMuDsrfZCovopFnpkxGqvZjSbC1uinHv5gSSfRY4U\\_6c9Z3](http://baike.baidu.com/link?url=MojMctdg5isE4zVnKcwD3275T-XiDT9QE9n7IBsd7Xg7QiCul2nXKSbk8DehaMuDsrfZCovopFnpkxGqvZjSbC1uinHv5gSSfRY4U_6c9Z3)
- 写真28:安徽鳳陽鼓樓 2010.1.02 筆者撮影
- 写真29:荊州八嶺山明遠簡王墓 2013.1.28 著者撮影
- 写真30:明鐘祥梁莊王墓・金鑲寶石白玉縷空雲龍帽頂(湖北省博物館蔵)  
<http://baike.baidu.com/link?url=zYuHd-L9yVPj11x2Juv21Y-1v2F3EZzz9DZsWw6htsCNxKE28kE5uY77hmvmuMFXk>
- 写真31:張獻忠(四川省綿陽家廟)塑像  
[http://baike.baidu.com/link?url=wGIDcSwwSLco37K4SpxkoPY6w3yG5\\_KTiHCSeRIpjkOks5BQvGuok2uqn\\_KPyV37L0y1bksHkEiSgQX7Q3Z\\_](http://baike.baidu.com/link?url=wGIDcSwwSLco37K4SpxkoPY6w3yG5_KTiHCSeRIpjkOks5BQvGuok2uqn_KPyV37L0y1bksHkEiSgQX7Q3Z_)
- 写真32:山海関 2011.9.03著者撮影
- 図14:明毅宗崇禎帝朱由檢  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B3%EC7%EC%F5&fr=ala1>
- 図15:呉三桂(中央)  
<http://baike.baidu.com/view/10050.htm>
- 写真33:明十三陵  
<https://search.yahoo.co.jp/image/search?rkf=2&ei=UTF-8&p=%E6%98%8E%E5%8D%81%E4%B8%89%E9%99%B5>
- 写真34:金太祖完顔阿骨打睿陵・地下宮石棺槨  
<http://huanglingwenhua.baike.com/article-86420.html>

- 図16:清高宗乾隆帝弘曆  
[http://baike.baidu.com/link?url=khtbe3AZqjHau8GR4YzAbbRa7qBXeSjQDIV2X4aB2NjfORcG0zhVdPfQj1-HJHeoGe3TTg4H4BV\\_AMFebFlJdEDGk5pwFLr6ZrfyvioKRSCq3GMkh2LSm7eE6QO5Sen](http://baike.baidu.com/link?url=khtbe3AZqjHau8GR4YzAbbRa7qBXeSjQDIV2X4aB2NjfORcG0zhVdPfQj1-HJHeoGe3TTg4H4BV_AMFebFlJdEDGk5pwFLr6ZrfyvioKRSCq3GMkh2LSm7eE6QO5Sen)
- 写真35:明成祖永樂帝朱棣長陵・祿恩殿 2014.8.08 筆者撮影
- 写真36:明長陵・祿恩殿と楠木大柱 2014.8.08 筆者撮影
- 写真37:明世宗嘉靖帝朱厚熹永陵 張振光『中国古代建築図片庫 帝王陵寢』(2011 中国建築工業出版社)

## 第6章

- 写真1:昭陵六駿「拳毛騏」(ペンシルベニア大学考古人類学博物館蔵)  
<http://www.penn.museum/blog/collection/125th-anniversary-object-of-the-day/taizong-horses-object-of-the-day-100/>
- 写真2:昭陵六駿「霹靂紫」(ペンシルベニア大学考古人類学博物館蔵)  
<http://www.penn.museum/blog/collection/125th-anniversary-object-of-the-day/taizong-horses-object-of-the-day-100/>
- 写真3:盧芹齋 周秀琴「昭陵兩駿流失始末」(『碑林集刊』2002 西安碑林博物館)
- 写真4:Carl W. Bishop博士 周秀琴「昭陵兩駿流失始末」(『碑林集刊』2002 西安碑林博物館)
- 写真5:党玉琨  
<http://baike.baidu.com/picture/3943240/0/e4dde71190ef76c6d3ffd9ad9d16dfdaaf516702?fr=newalbum#aid=0&pic=e4dde71190ef76c6d3ffd9ad9d16dfdaaf516702>
- 写真6:周公東征方鼎(サンフランシスコアジア美術館蔵)  
[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_4ed0757d01014g4f.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_4ed0757d01014g4f.html)
- 写真7:宋哲元  
[http://baike.baidu.com/link?url=T\\_2OHhYpk5YioOo3\\_LFeDNm55qdHFFmc\\_CxgkCrYtpP1EC5y4Tg8j051T5K0-AkncLSIy8MqcnixpiTLYFeQK](http://baike.baidu.com/link?url=T_2OHhYpk5YioOo3_LFeDNm55qdHFFmc_CxgkCrYtpP1EC5y4Tg8j051T5K0-AkncLSIy8MqcnixpiTLYFeQK)
- 写真8:孫殿英  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CB%EF%B5%EE%D3%A2&fr=ala1>
- 図1:清東陵平面図 王巍『中国考古学大辞典』(2014 上海辞書出版社)
- 図2:定東陵(慈安皇太后陵、慈禧皇太后陵)・平面図 晏子有『清東西陵』(2000 中国青年出版社)
- 写真9:慈禧皇太后(西太后)  
[http://baike.baidu.com/link?url=vw9yOvx4qNn0P087UnG\\_x7gXW0jojETE\\_BaKy8RvBu5xPS75ZYrI\\_G5urNrf3KYbrPRRLHy\\_3Wef3BwloLzT4a](http://baike.baidu.com/link?url=vw9yOvx4qNn0P087UnG_x7gXW0jojETE_BaKy8RvBu5xPS75ZYrI_G5urNrf3KYbrPRRLHy_3Wef3BwloLzT4a)
- 写真10:慈禧皇太后定東陵・石五供、方城、明樓 2014.8.11 筆者撮影

写真11：清定東陵・墓道入り口 2014.8.11筆者撮影  
 写真12：清定東陵・金券（墓室）2014.8.11 筆者撮影  
 写真13：清定東陵・金券の破損した石門  
 2014.8.11 筆者撮影  
 写真14：清高宗乾隆帝弘曆裕陵 2014.8.11 筆者  
 撮影  
 写真15：清裕陵・琉璃影壁 2014.8.11 筆者撮影  
 写真16：清裕陵・第一道石門 2014.8.11 筆者撮影  
 写真17：清裕陵・第一道石門東扉「文殊菩薩」  
 2014.8.11 筆者撮影  
 写真18：清裕陵・第一道門洞東壁「西方広目天王」  
 2014.8.11 筆者撮影  
 写真19：清裕陵・第四道券石門東扉 2014.8.11  
 筆者撮影  
 写真20：裕清陵・金券天井三仏像 2014.8.11 筆  
 者撮影  
 写真21：東陵大盗を報じる『中央日報』と『順天  
 時報』 国際日本文化研究センター  
 写真22：慈禧皇太后遺骸  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B4%EC%FB&fr=ala1>  
 写真23：清裕陵・金券内の乾隆帝棺槨 2014.8.11  
 筆者撮影  
 写真24：愛新覺羅溥儀  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%E4%DF%D2%7&fr=ala1>  
 図3：清西陵平面図 王巍総主編『中国考古学大  
 辞典』（2014 上海辞書出版社）  
 図4：清德宗光緒帝戴漉  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B9%E2%D0%F7%B5%DB&fr=ala1>  
 写真25：清德宗光緒帝戴漉崇陵  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B3%E7%CA%1&fr=ala1>  
 写真26：清崇陵・望柱 2014.8.16 筆者撮影  
 図5：崇陵陵園平面図 晏子有『清東西陵』（2000  
 中国青年出版社）  
 写真27：月夜の清崇陵方城、明楼と宝城  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B3%E7%CA%1&fr=ala1>  
 写真28：清崇陵・金剛壁跡の盗掘坑（左手前）  
 2014.8.16 筆者撮影  
 写真29：清崇陵・第二、第三道石門 2014.8.16  
 筆者撮影  
 写真30：清崇陵・金券の光緒帝と隆裕皇后の棺槨  
 2014.8.16 筆者撮影  
 図6：清崇陵・地下宮殿金井（天津大学・王其亨  
 教授作画）徐鑫『掲密光緒陵：崇陵地下宮殿清  
 理之謎』（2010 中国書店）  
 図7：清崇陵・青白石金井獸頭蓋 来村多加史  
 2013年作成資料  
 写真31：瑾妃  
[http://baike.baidu.com/link?url=SLOYZp8fj6DQR1OkQXkeFzABNmUcZ6BYKGVv00x5P3s9IMlB\\_tTgN91tSxo\\_icTc39Yuvh2DpOgY4Z58za](http://baike.baidu.com/link?url=SLOYZp8fj6DQR1OkQXkeFzABNmUcZ6BYKGVv00x5P3s9IMlB_tTgN91tSxo_icTc39Yuvh2DpOgY4Z58za)  
 写真32：珍妃 <http://image.baidu.com/i?tn=>

[baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%D5%E4%E5%FA&fr=ala1](http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%D5%E4%E5%FA&fr=ala1)  
 写真33：珍妃の井戸 <http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%D5%E4%E5%FA&fr=ala1>  
 写真34：清崇陵妃園寝 2014.8.16 筆者撮影  
 写真35：崇陵・妃園寝の享殿と園寝門 2014.8.16  
 筆者撮影  
 写真36：崇陵・珍妃墓（左）と瑾妃墓（右）  
 2014.8.16 筆者撮影  
 写真37：清東陵・裕陵容妃（香妃）墓の墓室  
 2014.8.16 筆者撮影  
 図8：容妃（香妃）  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CF%E3%E5%FA&fr=ala1>  
 写真38：李品仙  
[http://baike.baidu.com/link?url=kiTAvHxVAbhmWEXbn8jORfoimC3CQAUhD5ehgqgQH86YwlgbtB3lrsKtIiQEhO1mLPL5YmnApd57jLm\\_DYg\\_](http://baike.baidu.com/link?url=kiTAvHxVAbhmWEXbn8jORfoimC3CQAUhD5ehgqgQH86YwlgbtB3lrsKtIiQEhO1mLPL5YmnApd57jLm_DYg_)  
 写真39：唐生智  
<http://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%94%90%E7%94%9F%E6%99%BA>  
 写真40：1933年盗掘「鏽客大鼎」（安徽省博物館蔵）  
[http://www.cnarts.net/CWEB/Appreciation\\_collection/index\\_read.asp?typeid=14&page=1&id=20056](http://www.cnarts.net/CWEB/Appreciation_collection/index_read.asp?typeid=14&page=1&id=20056)  
 写真41：明恭肅貴妃万氏「万娘墳」園寝門跡  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CD%F2%CA%EF%B7%D8&fr=ala1>  
 写真42：「万娘墳」園寝遺跡  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CD%F2%CA%EF%B7%D8&fr=ala1>  
 写真43：清東陵・裕陵妃園寝の純惠皇貴妃墓  
 2041.8.11 筆者撮影  
 写真44：清聖祖康熙帝玄燁景陵 2010.8.6 筆者撮影  
 写真45：汪兆銘（右）と陳璧君（左）  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B3%CE%8%B5%BE%FD&fr=ala1>  
 写真46：蒋介石  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%BD%AF%BD%E9%CA%AF&fr=ala1>  
 写真47：南京梅花山  
<http://www.izmzg.com/zmzg/nanjing/jingdian/2012-04-10/14760.html>

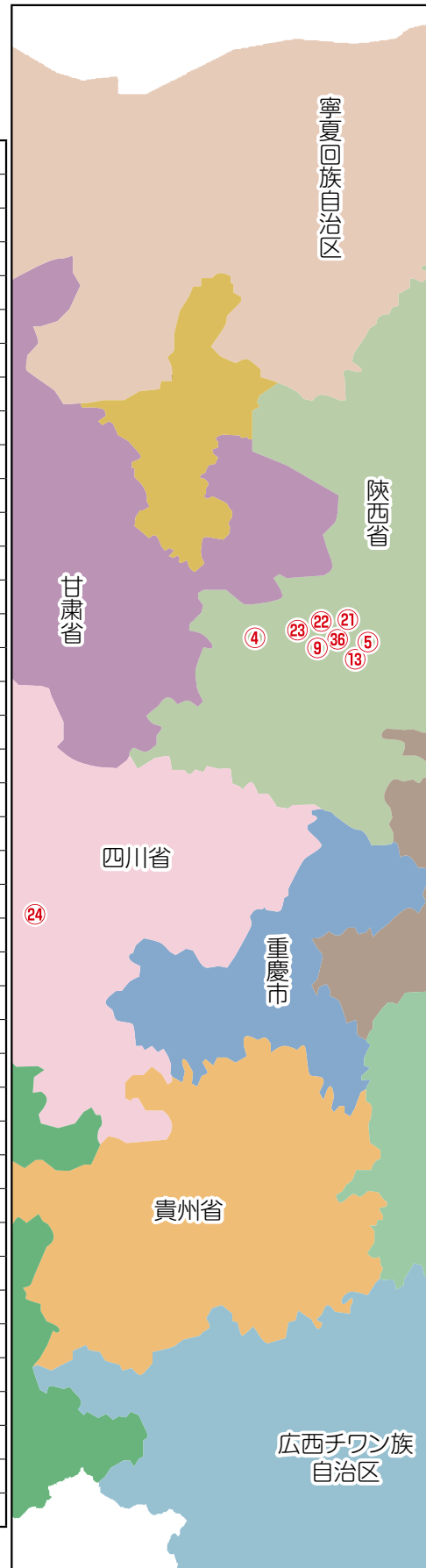
## 第7章

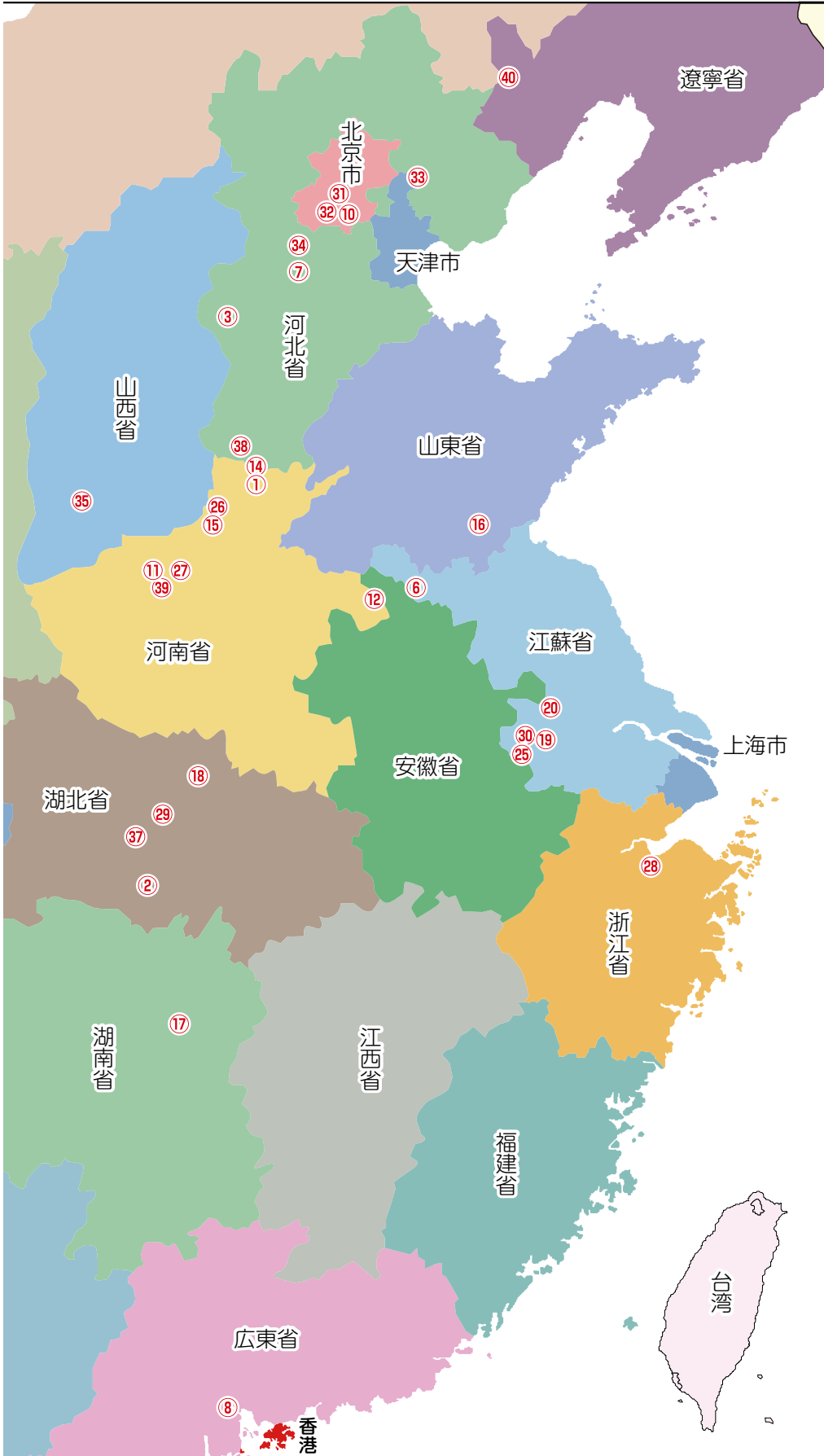
図1：唐燕德妃墓壁画「四女侍図」（昭陵博物館蔵）  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CC%CE%20%D1%E0%B5%CE%5%FA%CE%9%20%B1%DA%BB%AD&fr=ala0>  
 図2：唐韋貴妃墓壁画「備馬図」（昭陵博物館蔵）  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%CC%CE>

- %20CE%A 4 %B 9 %F 3 %E 5 %FA%C 4  
%B 9 %20%B 1 %DA%BB%AD&fr=ala 1  
写真1：甘肅礼泉大堡子山  
<http://www.gscn.com.cn/tourism/system/2013/06/09/010369031.shtml>
- 写真2：甘肅大堡子山秦西垂陵区遺跡  
<http://tieba.baidu.com/p/1827499248>
- 写真3：垂鱗紋秦公銅鼎（「秦公乍鑄用鼎」）（甘肅省博物館藏）  
[http://baike.baidu.com/link?url=MZdUOiXkxG-1TSa7HYoNNS0Gi94k1QwvRza8LpigXbRw3d3aQSiE1bgGNbGBI0EHCNHCmgup0cJ2AUix\\_2Ej\\_](http://baike.baidu.com/link?url=MZdUOiXkxG-1TSa7HYoNNS0Gi94k1QwvRza8LpigXbRw3d3aQSiE1bgGNbGBI0EHCNHCmgup0cJ2AUix_2Ej_)
- 図3：北周高祖武帝宇文邕  
[http://baike.baidu.com/item/%E5%AE%87%E6%96%87%E9%82%95?from\\_id=6542908&type=syn&fromtitle=%E5%8C%97%E5%91%A8%E6%AD%A6%E5%B8%9D&fr=aladdin](http://baike.baidu.com/item/%E5%AE%87%E6%96%87%E9%82%95?from_id=6542908&type=syn&fromtitle=%E5%8C%97%E5%91%A8%E6%AD%A6%E5%B8%9D&fr=aladdin)  
[http://epaper.xiancn.com/xarb/html/2013-08/06/content\\_229620.htm](http://epaper.xiancn.com/xarb/html/2013-08/06/content_229620.htm)
- 写真4：「天元皇太后璽」（咸陽博物館藏）  
[http://baike.baidu.com/link?url=3fE9-sbq-XnZ4scayQ8cS4r-eLGVjI910ToqleV\\_VbvZubRd\\_Ka44Q-3Kk0\\_0\\_eIGStRv2HkuMfMdQKntk5L-UTa](http://baike.baidu.com/link?url=3fE9-sbq-XnZ4scayQ8cS4r-eLGVjI910ToqleV_VbvZubRd_Ka44Q-3Kk0_0_eIGStRv2HkuMfMdQKntk5L-UTa)
- 写真5：戦国郭家崗1号墓「千年古屍」（荆門市博物館藏）  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B9%F9%BC%D2%B8%DA%D2%BB%BA%C5% C4%B9&fr=ala1>
- 写真6：「虎座鳥架鼓」（荆州市博物館藏）  
<http://baike.baidu.com/link?url=OYrvHv3r0t9DOWpfzDo0jSKppdEbhSubETYPg531a1EHp9-GGSZoLBrn-DpC-EL-hE5EYS4njGC1ABFYlzpX2a>
- 写真7：唐敬宗李湛莊陵・石翁仲 2011.8.09 筆者撮影
- 図4：唐中宗李顯  
<http://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%94%90%E4%B8%AD%E5%AE%97>
- 写真8：唐中宗李顯定陵（左後方）と門獅子、後方は遺跡ボーリング風景 2011.8.10 筆者撮影
- 写真9：節愍太子李重俊墓 2012.9.05 筆者撮影
- 写真10：唐三彩駱駝載樂俑（陝西歷史博物館藏）  
<http://baike.baidu.com/link?url=j2vBKmTYyK1e5Bogt-UTqbiBW7Q6dGTzh5kHnlpvd5upHC3Bg0A2kT1rodMLgxLU>
- 写真11：邯鄲趙王陵2号墓  
[http://baike.baidu.com/link?url=JRDRpbDF2fTw83qybtw6FlsUb-YDihktKBiPZ\\_jdEQg-D7Q6MiHL2mW\\_ULISASN8WgEavXM7Uf28hJNuL4N61q](http://baike.baidu.com/link?url=JRDRpbDF2fTw83qybtw6FlsUb-YDihktKBiPZ_jdEQg-D7Q6MiHL2mW_ULISASN8WgEavXM7Uf28hJNuL4N61q)
- 写真12：2010年1月6日 趙王陵4号墓・盜掘犯6名逮捕現場（2010.1.10『燕趙都市報』）  
[http://njl.hebei.com.cn/xwzx/ccnj/snyw/201001/t20100110\\_1004022.html](http://njl.hebei.com.cn/xwzx/ccnj/snyw/201001/t20100110_1004022.html)
- 写真13：趙王陵4号墓・盜掘坑（2010.1.10『燕趙都市報』）  
[http://njl.hebei.com.cn/xwzx/ccnj/snyw/201001/t20100110\\_1004022.html](http://njl.hebei.com.cn/xwzx/ccnj/snyw/201001/t20100110_1004022.html)
- 写真14：趙王陵4号墓・盜掘道具類（2010.1.10『燕趙都市報』）  
[http://njl.hebei.com.cn/xwzx/ccnj/snyw/201001/t20100110\\_1004022.html](http://njl.hebei.com.cn/xwzx/ccnj/snyw/201001/t20100110_1004022.html)
- 図5：楚王山楚王陵分布図 劉瑞、劉濤『西漢諸侯王陵墓制度研究』（2010 中国社会科学出版社）
- 写真15：楚王山漢墓群  
<http://www.tsdmw.cn/show.asp?strID=141>
- 写真16：唐孝敬皇帝李弘恭陵（左奥）と『穀德紀』（手前） 2012.9.02 筆者撮影
- 写真17：恭陵から見た哀皇后裴氏「娘娘墳墓」 2012.9.02 筆者撮影
- 写真18：哀皇后裴氏「娘娘墳墓」墓室  
<http://bbs.dahe.cn/read-htm-tid-1704166.htm>
- 写真19：前漢竇皇后陵（北陵）  
<http://www.china-citytour.com/city/scenic/1157.html>
- 写真20：前漢薄太后南陵  
[http://pp.fengniao.com/photo\\_6778940.html](http://pp.fengniao.com/photo_6778940.html)
- 写真21：前漢霸陵陪葬坑・黑色裸体陶俑  
<http://www.cco100.com/newsview/6096.html>
- 図6：和珅 [http://baike.baidu.com/link?url=nonuBHK8NRJRITTuLXC3oK2ChkQAt0NvZTdsI7KfpzNGQUxTxk0H\\_VV7iwOwWfC9ga1ACmfUEpPs3gZDoynWZK](http://baike.baidu.com/link?url=nonuBHK8NRJRITTuLXC3oK2ChkQAt0NvZTdsI7KfpzNGQUxTxk0H_VV7iwOwWfC9ga1ACmfUEpPs3gZDoynWZK)
- 写真22：帰ってきた唐武惠妃石槨  
<http://news.sohu.com/20100618/n272879992.shtml>
- 写真23：唐武惠妃石槨・内壁石刻  
<http://news.sohu.com/20100618/n272879992.shtml>
- 写真24：長沙市中級法院「湖南最大盜墓事件」一審の模様（2015.5.15『搜狐新聞』）  
<http://news.sohu.com/20100515/n272134350.shtml>
- 写真25：「長沙王印」  
<http://image.baidu.com/i?tn=baiduimage&ct=201326592&lm=-1&cl=2&word=%B3%A4%C9%B3%CD%F5%D3%A1&fr=ala1>
- 写真26：随州義地崗古墓群石碑  
<http://tieba.baidu.com/p/2650540404>
- 写真27：「曾侯宝鼎」  
[http://www.360doc.com/content/12/1107/10/2556131\\_246337707.shtml](http://www.360doc.com/content/12/1107/10/2556131_246337707.shtml)
- 写真28：紅山文化・玉猪龍  
[http://epaper.jinghua.cn/html/2015-05/27/content\\_202033.htm](http://epaper.jinghua.cn/html/2015-05/27/content_202033.htm)
- 写真29：朝陽市中級人民法院・姚玉忠被告（2016.4.15『澎湃新聞』）  
[http://www.thepaper.cn/newsDetail\\_forward\\_1456955](http://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_1456955)
- 写真30：盜掘道具・裝備大全（2010.1.10『燕趙都市報』）  
[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_6efbeed00100mt9.p.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_6efbeed00100mt9.p.html)
- 写真31：生き埋めになって運び出される盜掘犯死体（2013.6.18『人民網』）  
[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_6efbeed00100mt9.p.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_6efbeed00100mt9.p.html)

## 古墓・遺跡 位置概略図

	古墓・遺跡名
①	殷墟・婦好墓
②	楚紀南故城
③	中山王墓
④	秦公1号大墓
⑤	秦始皇帝驪山陵
⑥	徐州漢墓群
⑦	滿城漢墓
⑧	南越王墓
⑨	前漢武帝茂陵
⑩	大葆台漢墓
⑪	伝後漢光武帝原陵
⑫	芒碭山前漢梁王墓地
⑬	前漢文帝霸陵
⑭	曹操高陵
⑮	汲冢書出土跡
⑯	銀雀山漢墓
⑰	馬王堆漢墓
⑱	曾侯乙墓
⑲	南朝陵墓群（丹陽）
⑳	揚州隋煬帝墓
㉑	唐高祖獻陵
㉒	唐太宗昭陵
㉓	唐高宗乾陵
㉔	前蜀王建墓
㉕	南唐二陵
㉖	比干墓
㉗	北宋皇陵
㉘	南宋皇陵
㉙	明睿恭獻皇帝顯陵
㉚	明洪武帝孝陵
㉛	明十三陵
㉜	金皇陵（大房山区）
㉝	清東陵
㉞	清西陵
㉟	（曲村天馬）晋侯墓地
㊱	北周武帝孝陵
㊲	郭家崗1号墓
㊳	邯鄲趙王陵群
㊴	唐孝敬皇帝李弘恭陵
㊵	牛河梁遺跡（紅山文化）





**岡島 政美** (おかじま まさみ)

1950年（昭和25年）、徳島生まれ。

商社勤務のかたわら、90年代より訪中百数十回、あらかたの古墓を歴訪。

退職後、あらためて関西大学アジア文化専修で学ぶ。

趣味は読書と中国考古学、なかんずく陵墓遺跡関連の書籍収集。





中国盗墓史稿 -未だ掘られざるの墓無し-

---

2019年1月15日 電子本発行

著 者 岡島政美

発行者 山崎亮一

発行所 せせらぎ出版

〒530-0043 大阪市北区天満1-6-8 六甲天満ビル10階  
TEL. 06-6357-6916 FAX. 06-6357-9279

---

©2019 ISBN978-4-88416-802-5

せせらぎ出版ホームページ <http://www.seseragi-s.com>  
メール [info@seseragi-s.com](mailto:info@seseragi-s.com)

火小兒啼有四足形如鱧可以治牛出伊水異物志云  
人魚似人形長尺餘不堪食皮利子鮫魚鋸材木八項  
上有小穿氣從中出秦始皇冢中以人魚膏為燭即此  
魚也出東海中今台州有之按度不滅者久之正義度  
今帝王用漆燈冢中則火不滅音田洛

反二世曰先帝後宮非有子者出焉不宜皆令從死死

者甚衆葬既已下或藏皆知之藏重即泄

大事畢已藏閉中羨同下外羨門盡閉工



匠藏者無復出者樹草木以象山其解駟案皇覽曰墳

里餘正義闕中記云始皇陵在驪山泉本北流障使東  
西流有土無石取大石于渭山諸山括地志云秦始皇